昭和44年12月23日第3種郵便物認可　昭和54年10月15日発行（毎月1回15日発行通巻第120号）

バドミントン 10

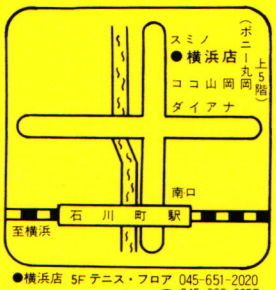
日本バドミントン協会　The Badminton World　No.120 1979



四番打者、行けジョージ

11/16 吉祥寺店オープン

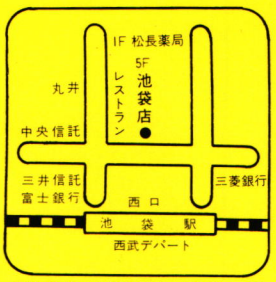




●横浜店 5F テニス・フロア 045-651-2020
☎ 045-662-9857
4F バドミントン・フロア
☎ 045-662-7133

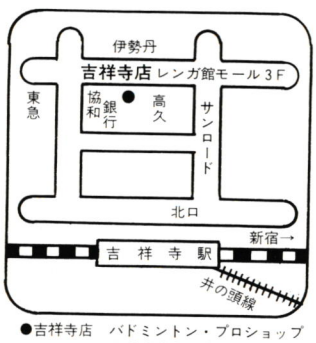


●渋谷店 バドミントン・プロショップ
☎03-400-7390



●池袋店 バドミントン・プロショップ
☎03-988-0215

ラケットショップ元町



●吉祥寺店 バドミントン・プロショップ
☎0422-21-7890

バドミントン 10

❷
メルボルンにて・小柳尚久
オーストラリアのシャトラーたち

❽
CHINA FEATURES特約
新しい黄金時代に近づく中国バドミントン

❿
「日本バドミントン・リーグ」
男女ともに各5チームが参加

⓮
トマス・カップ'79から
輝かしきスターたち

⓲
われらのクラブ・材木クラブ
限りなき闘志に燃えて

㉔
近刊予告
スターティング・バドミントン発売!!

㉖
第22回全日本社会人選手権大会
伏兵土田・原田組複を制す

㉚
第9回全国中学生大会
無敵熊本、圧巻の3連覇

㉜
大阪、逆転の連続、初優勝
ベスト8の実力紙一重

㉟
日韓高校交換競技会に参加して
高校生の選手強化対策充実を痛感

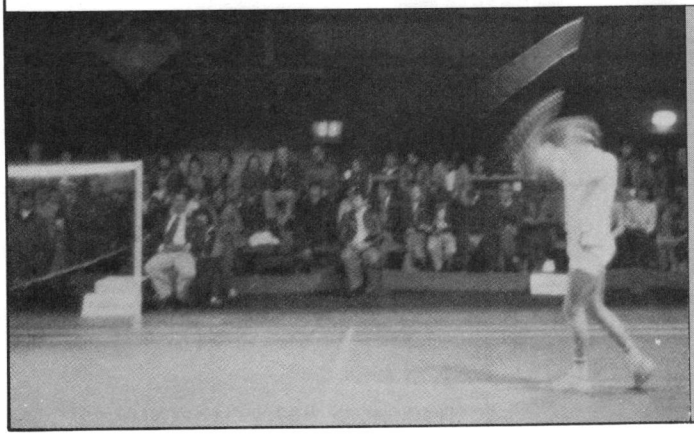
㊱
教職員大会初の
〝懇親会〟開かれる

㊳
寄稿＝熊本・葦原健身
中学生大会のあり方について

㊵
TOKYO LETTER

◇表紙デザイン・構成、本文カット＝野間デザイン室
◇表紙・本文中写真撮影＝赤星三樹（使用カメラ/ニコンFM　レンズ/NIKKOR　20/3.5, 50/1.4, 200/2）
◇今月の表紙＝関東学生選手権、東日本学生選手権に連勝の西山博司

明るく陽気な
オーストラリアのシャトラーたち



メルボルンにて

小柳尚久

これから春へと向う南半球より、お便りしています。日本の気候はいかがでしょうか。日ごとに暑さもやわらぎ、プレーヤーにとって地獄!?の夏も、ようやく終わりを告げ、秋風の頃と思います。

日本では、豪州の情報を入手するのが困難かと思いますので、この機会にできる限り足をのばして情報を集め、こちらのバドミントンがどんなものかを、皆様にお伝えしようと思います。

実際、僕が訪豪する前、あらゆるバドミントン雑誌から、オーストラリアの記事を見つけようと努力しましたが、結局数行のユーバー杯、トマス杯の結果と、昨年のシルバーボウルの記事ぐらいしか見つけることができませんでした。そのため、行きの飛行機の中では、「もし、オーストラリアにバドミントンがなかったら……」などと考え、さらにはテニスでも始めようかなどとも思っていました。

後日、大学の体育館でバドミントンのコートを見つけた時には、嬉しさのため、思わず日本語で叫んでしまいました。(まわりにいた僕の友人たちは、僕のことを"a crazy boy"と思ったに違いありません)

どうか諸先輩の皆様、僕のまずい文章で、この誌面を汚すのをお許しください。

⊙ホワイト・トロフィー大会はオーストラリアに軍配

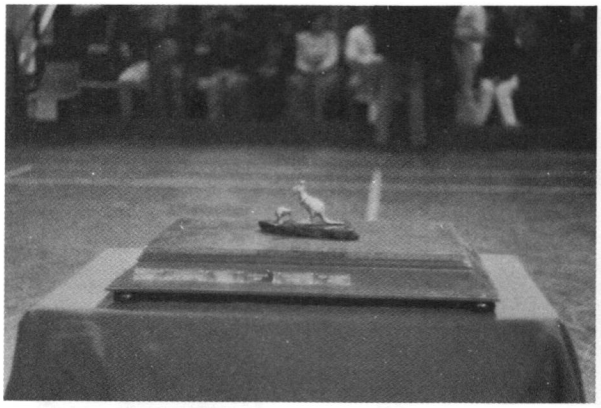
さて、同封いたしましたプログラムは、〝ホワイト・トロフィー〟と呼ばれる、オーストラリアとニュージーランドの間で行なわれる、年に一度の国際大会です。幸運なことに、今年は僕の大学のあるメルボルンで開かれましたので、観戦することができました。

この大会が最初に行なわれたのは、一九三八年。D・ホワイト夫妻によって両国のバドミントン交流が始まり、今年で19年目になります。過去の対戦成績は、オーストラリアの10勝8敗と、ほぼ互角。昨年は、ニュージーランドのクライストチャーチで開かれ、8―6のスコアでニュージーランドがタイトルホルダーとなりました。

ホワイト・トロフィーというので、白い大きなトロフィーだと思っておりましたが、写真でおわかりになるとおり、木でできた箱の上にニュージーランド産の翡翠(ひすい)と、その上に両国の代表的な動物であるカンガルーとエミューを型取った置物が向いあっているだけという、簡単なトロフィーでした。

今年はビクトリア州の3つの都市、バララット、ジーロン、キルサイスでそれぞれ16ゲーム、あわせて48ゲーム、10日間にわたる熱戦が繰り広げられました。結果は12―4、11―5、9―7、いずれも、オーストラリアチームが、地の利を生かしてニュージーランドをくだしました。ただヨーロッパ遠征のため、ニュージーランドの名プレーヤー、リチャード・バーサー、ブラウン・バーサーの兄弟が参加していなかったのは、ニュージーランドにとって大きなマイナスであったことは間違いありません。

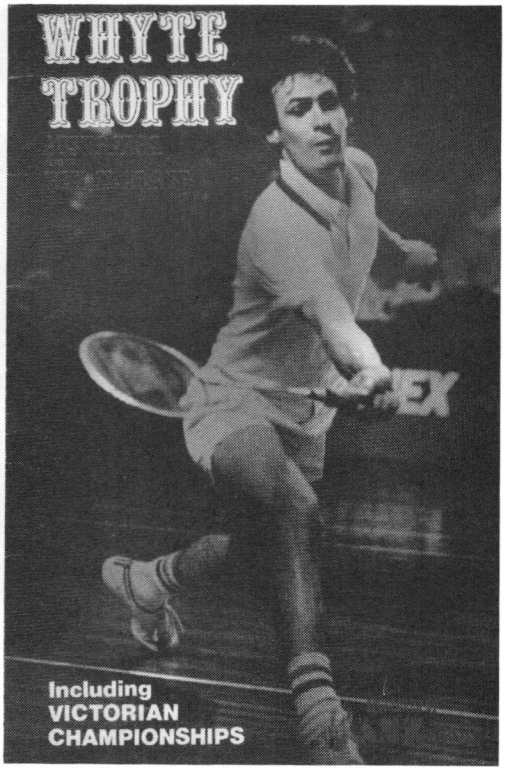
ニュージーランドのプレーヤーに尋ねてみたところ、「リチャードは年をとっているが、リチャードとブラウンのダブルスは、本当にすばらしい。特にブラウンのスマッシュは、



〝ホワイト・トロフィー〟



バーティーの準備に余念のないウエイター



ホワイト・トロフィー大会プログラム

同大会の入場券



〝ファンタスティック〟だ」とほめていました。

さらに幸いなことに、友人を通じてニュージーランドのプレーヤーの滞在している家を訪れ、貧しい英語をどうにかつなぎ合わせ、いろいろと聞き出すことができましたので、そのことについて少しふれてみたいと思います。

⊙ガットはみんな機械張り

ニュージーランドというと、我々日本人にとっては〝羊の国〟というイメージが強いと思います。人間の数よりも羊の頭数の方が多く、牧畜と酪農に支えられている国といえるでしょう。それだけに私の最初の質問は、「本シープのガットは、さぞかし安いでしょうね」という何とも恥ずかしいものでした。ところが予想に反して、答は「ノー」でした。彼らにその理由を尋ねてみたところ、「ニュージーランドには、すばらしい本シープのガットがあることにはある。それらはたった2～3ドル（五〇〇円～七五〇円位）で作られているけれども、スポーツ店を通して我々の手に入る時には、7～8ドルになってしまう」と答えてくれました。そしてなんと「張り代」として、さらに8ドルもとられてしまうそうです。

オーストラリアでもそうですが、ニュージーランドでもすべてガットは機械で張られ、人手が足りないのか、ガットを張る方法を知っている人が少ないのか、時には一週間もかかるといいます。

また、2～3本のガットで部分修理をする



ニュージーランド・チーム

のでさえ、1本につき何セントと決められており、ガットを自分で張ることができるというと、尊敬のまなざしを受けます。しかしながらやはり羊の国、本シープのガットを愛用している人は多く、ジュニアプレーヤーでさえ、一流メーカーの本シープのガットを使っているのにはおどろきました。

⊙うらやましい設備の体育館もある

ニュージーランドの人口はたったの二〇〇万人。オーストラリアのおよそ5分の1です。それでもバドミントン人口は、オーストラリアと変わらないか、それ以上だというので、かなり人気のあるスポーツといえるでしょう。そして、それぞれの都市に、立派な設備があるそうです。それらはもちろん、バドミントン専用体育館。床、天井とも申し分なく、2階で食事をしながらプレーを見ることができるそうです。日本にも早くこのような体育館ができないでしょうか。

彼らはそれぞれのアソシエーションに所属し、定期的なトーナメントも開かれるそうです。年に一度、それぞれのアソシエーションの代表が集まって覇を争う大会は、中でも大きなもので、体育館は観客でいっぱいになるそうです。

⊙シャトルは中国製か英国製

以上、ニュージーランドについて、簡単に聞いたことを書いてきましたが、今度は、僕が実際に体験しているオーストラリアのバドミントンについて、ご紹介してみたいと思います。

オーストラリアで最初にシャトルが打たれたのは、一九〇〇年、現在一一、〇〇〇～二〇、〇〇〇のプレーヤーがおり、メルボルンを中心とするビクトリア州に、最も多くプレーヤーがいるそうです。しかしまだまだテニス、スカッシュに比べると、マイナースポーツであるという感は否めません。そして何よりも、設備が不十分であると思います。ラケットは、英国、日本などから輸入されたものなので、20～30%高くなっているし、シャトルコックは主に中国製か英国製のものを使います。

⊙シーズンには毎週トーナメント

メルボルンの町より、さほど遠くないところに、バドミントンセンターなるコート12面専用体育館があり、僕の所属するセントラルアソシエーションも、ここでプレーをしています。しかし天井はサーブがすぐにぶつかってしまうほど低いし、床はコンクリート。くつ下を2枚重ねてはかないと、とても足にショックが強く、長くやってはいられません。

メルボルンには、十数ケ所にアソシエーションスタジアムがあり、専用体育館も多いですが、どれも一長一短。国際試合が行なわれたキルサイスの専用体育館と、シルバーボウルが行なわれたコロイドンスタジアムの2ケ所以外の体育館は、コンクリート床だったり、モップ掃除をしたことがないような〝砂場〟!?だったりで、多少がっかりしました。

しかし彼らアソシエーション活動は、きわめて積極的で、冬場のシーズンとなるとほと



オーストラリア・チーム

んど毎週、各トーナメントが開かれます。(こちらではどちらかといえば、冬がシーズンで、夏にはテニスをやったり、海へ行ったりするプレーヤーも多いのです)

⊙ウォーミング・アップもなく いきなり開始

日本と違うところは、プレーヤーは各グレードに分けられ、各自の技量に合ったトーナメントを選べるということです。つまり初心者などはDグレード、中級者はC、Bグレード、さらに上級者になるとAグレード、最上級がオープングレードと5段階に分けられています。

また日本では大学のクラブ活動が大変さかんですが、こちらは大学の数も少なく、今年の5月に行なわれたインターバーシティトーナメントも、全州から12大学と、さびしいもので、大学の活動としてのバドミントンは、さほどさかんではありません。

各アソシエーションでは「ペナント」と呼ばれる対戦方式を用い、そのアソシエーション所属の各チームが総当たり戦(リーグ形式)をし、覇を争います。彼らのバドミントンは練習から学ぶというより、ゲームを中心とした練習方法で、体操、乱打などはほとんどせず、いきなりフリーの打ち合いをします。半面コートを使うという方法はこくまれで、ウォーミングアップもゲームで始めます。

ジュニアに対しての育成活動はとてもさかんで、5~6歳の子供が、広いコートを走りまわっている姿をよく見かけます。ジュニアのトーナメントも行なわれ、各州ではジュニアチームが作られ、州対抗のゲームも行なわれます。(写真を見て下さい。審判台に座って手をたたいている女の子は、未来のユ杯選手!?)

⊙激烈!!バドミントン

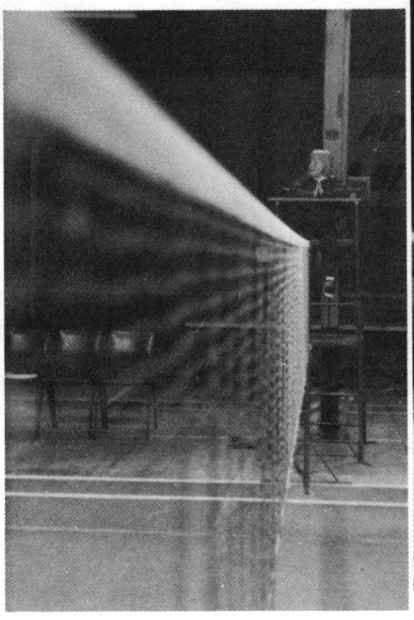
プレーの特徴としては、やはり日本ではあまり見られないバックハンド・スマッシュでしょう。体格が一回りも二回りも大きいせいか、何か迫力を感じます。しかしアジアのプレーに比べると、力強さは感じられますが、フットワークの美しさは見られません。インドネシアのように、ジャンプして打つというプレーは、ほとんどしません。

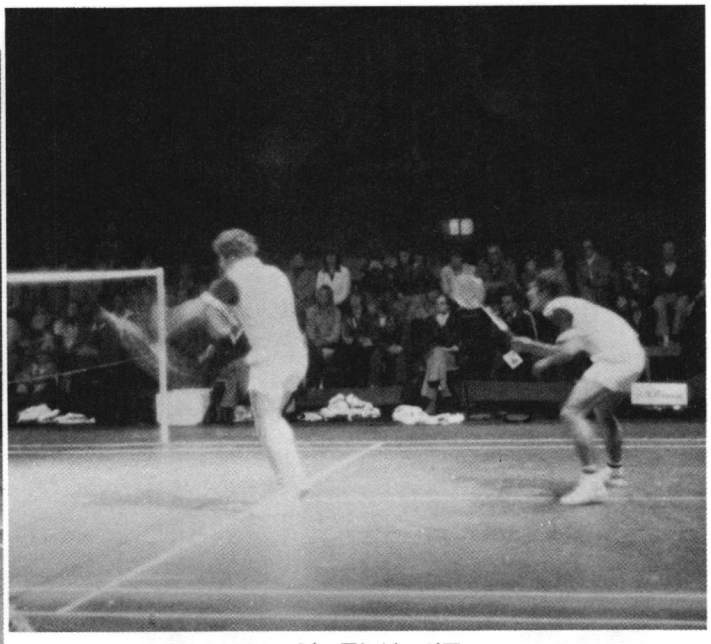
そしてもうひとつ、彼らのプレーの特徴として、トリック好みとでもいいましょうか。先日、バドミントンの本を友人より借りて読んでみましたところ、〝トリック・ショット〟なる項があり、多くのプレーヤーはしばしばいわゆる〝また下打ち〟や〝変形バックハンド〟を披露します。彼らは本当に陽気で、ユーモア精神にあふれているんですね。そうかと思えば、ミスが続くとコンクリートの床にでさえラケットをたたきつけたり、シャトルにやつあたりをしたり……。殺気さえ感じるほど、怒り狂うこともあります。感情をそのままプレーにあらわしてくるので、怒らせるとシャトルをまともに返してくれません。

⊙キャンピング・カーで試合場へ

彼らはゲームが終わると、決まってパーティーを開きます。それが単に小さな対抗試合であっても、ゲーム後にはティーパーティー

可愛いいアンパイア





ニュージーランド・ペア

が開かれ、お互いの交流を深めます。僕の友人に、なぜバドミントンが好きかと尋ねたところ、「それを通して多くの友人ができる。ゲーム後の語らい、ゲームの反省、雑談などが自分をハッピーにさせるから」と答えてくれました。

またオーストラリアには、多くの〝バドミントン・ファミリー〟がいます。子供からおじいさんまで、目標もさまざま。子供たちはジュニア代表をめざし、兄き姉きとなるとオーストラリア代表をめざし、ダディは息子に負けまいと、マミィは体重をちょっと気にしながら、おじいさんは若さを保とうと、それぞれ一生懸命にシャトルを追いかけます。それだけに試合会場の雰囲気も日本とは少し異なり、とてもあたたかなムードです。

家族で息子のプレーを応援している姿は、ちょっぴり僕をホームシックにさせました。そしてそれぞれの家族は、本当にバドミントン一家なのです。熱心に真剣にシャトルを見つめます。すばらしいことではないですか。バドミントンを通じてこのような〝あたたかさ〟を肌で感じたのは、これが初めてでした。

バドミントンを通して友と語らい、バドミントンを通して家族を結び、バドミントンを通して自分を精一杯表現し、これらの中で自分を見つめてゆく。彼らにとってバドミントンは、完全に生活の場ではないでしょうか。そしてこれこそ、オーストラリアのバドミントンのもう一つの特徴といえると思います。

コートせましとかけ回り、転んでもラケットをはなさない子供達、恐しいパワーのスマッシュを15歳の少年が放つ。あらゆるトリック・ショット、勝てば高く放り上げられ、負ければコンクリートにたたきつけられるラケット。深夜まで続くにぎやかなパーティー、キャンピングカーで試合場にゆく一家。

⊙陽気で明るい仲間たち

僕は多くのオーストラリアのトッププレーヤーを見て、彼らのプレーの特徴、日本のバドミントンとの違いなどに気がつきました。そしてもう一つ、それに加えオーストラリアのバドミントンを支えている多くの友人達を見て、今までにはなかったバドミントンのすばらしさを感じとることができたように思います。彼ら、陽気で明るい友人達は、いつでも僕に声をかけてくれます。

"Do you want to have a hit?"

僕は一度もこのさそいをことわったことがありません。

まだまだ彼らのことについて沢山書くことができますが、残りはお土産話としてとっておくことにしたいと思います。こんなに下手な文を最後までお読みくださってありがとうございます。もしももう少し、オーストラリアバドミントンの事に興味をもたれる方がおありでしたらご連絡ください。

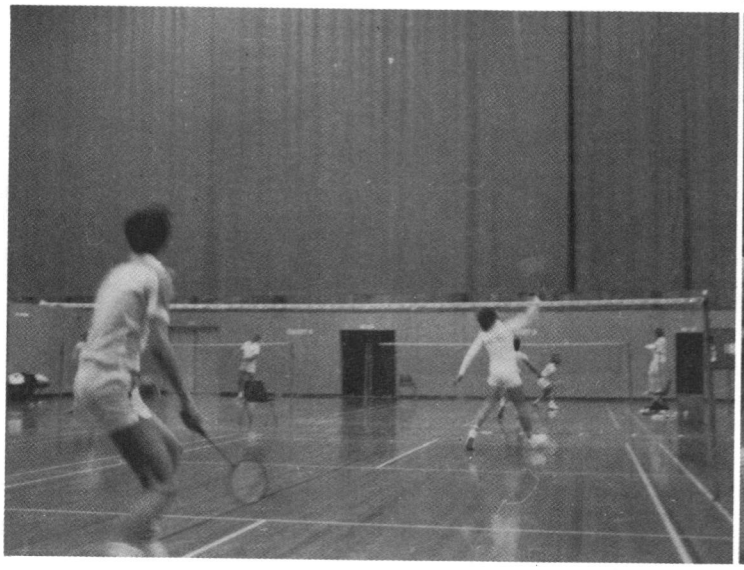
メルボルンにて

Naohisa Koyanagi
Menzies College, La Trobe
Uniuersity
Bundoora, 3080, Victoria,
Australia

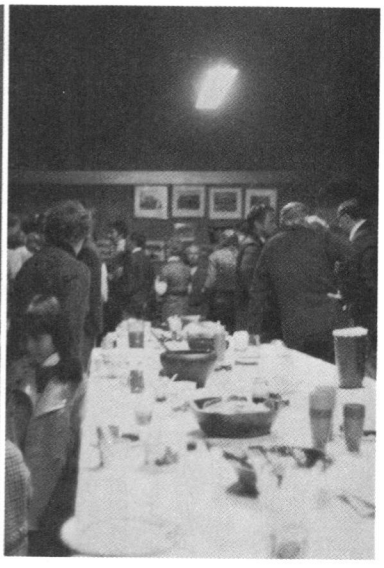


カンガルーのマスコットを中心にオーストラリア・チーム

ジーロンで行なわれたトーナメントで



ビクトリア・オープン後のパーティーで



おなじみになりましたバドミントン・ワールド・ステッカーの79年版ができあがりました。

いよいよ3年目を迎えたステッカーですが、全国のバドミントン・ファンにすっかり定着した感じです。

各地でキャリング・バッグやラケットケースに貼られたステッカーをみるたびに、編集部一同ますます張り切っています。

今年の色は明るいグリーンです。銀パクの地、白いシャトルは例年どおりです。

価格は1枚100円は前回と同じですが、5枚まとまると300円に割り引きいたしますので、クラブの皆さんでまとめてお申し込みください。

送料は何枚でも50円だけ加えてください。お申込み方法は他の出版物同様、巻末とじこみの振替用紙をご利用ください。振込み手数料はかかりません。

バドミントン界編集部

特別寄稿

新しい黄金時代に近づく中国バドミントン

中国羽毛球運動新的興起

China Features特約　華健民

かつて世界の主要なバドミントン勢力だった中国が、今再びその「黄金時代」を迎えようとしている。

平均年齢21歳という若いチームは、最近杭州で開かれた世界バドミントン連盟選手権大会を席巻、七つのタイトルのうち五つを手中にした。

もし今行なわれているWBFとIBFとの統合の動きがうまくいけば、中国勢にはトマス杯、ユーバー杯獲得に大いに自信の持てるところだ。

一九七八年、バンコックでのアジア競技大会では男子は決勝でインドネシアに完敗してしまったが、この杭州の大会では、その後の長足の進歩を披露して、男子のシングルス、ダブルス、団体、女子のシングルスと団体で優勝、女子ダブルスに準優勝の成績をおさめた。

杭州でめざましいプレーを見せたなかに、中国の最強プレーヤー二人を破って決勝に進出してきたパキスタンのタリク・ワードッドを降した韓健や、女子シングルスのタイトルを中国勢同士で争った十七歳の韓愛萍と傅春娥がいる。タイルは韓愛萍が獲得した。

男子はワールド・カップ獲得までにわずかに一試合を落としただけ、女子は5対0と完勝した。

杭州大会参加の18チームの力は、バンコックのアジア競技大会の結果と比べて推し計ることができるだろう。アジア競技大会では、日本、マレーシア、インドなどのIBF傘下の強力チームを降してタイとパキスタンが準決勝に残り、タイの女子が三位だった。

この二つの国のほかにも、中国はビルマ、香港、シンガポールからも苦戦を強いられた。

一方、バドミントンのもう一つの世界では、インドネシアか年来のライバル、デンマークを完敗させて七度目のトマス杯を守って王座についている。

このバドミントンの二つの巨人と中国との対戦の歴史を振り返ってみるのも参考になるかも知れない。

一九六三年と一九六五年の間に、中国はインドネシアと四回対戦していずれも勝っている。一九六五年には、強力な七人の中国選手団がデンマークに遠征し、主催国を手ひどい目に合わせた。

翌年まだ中国勢の優勢を信ずることのできなかったデンマークは中国にチームを派遣した。デンマーク・チームはナショナル・チームに負けたばかりでなく、湖北省のローカル・チームにも敗退した。

そして、文化大革命。バドミントン競技は六年間中止され、ナショナル・チーム、ローカル・チームとも解散させられて、コーチたちは、「再教育」のため地方へ送られた。

たとえば、一九六〇年代の初め従来の中国チームのほとんどの面倒を見てきた王文教は二年半福建省で釣りや耕作に明け暮れていて、やっと、故周恩来総理のはからいによって、北京に呼び戻されたのだった。

一九七二年にバドミントン解禁となった時、埋めるべきギャップは大きかった。侯加昌、湯仙虎、陳玉娘などベテランの国際的選手を頼みに、チームの再建につとめ、新しいトップ・クラスの選手の育成に奮闘した。

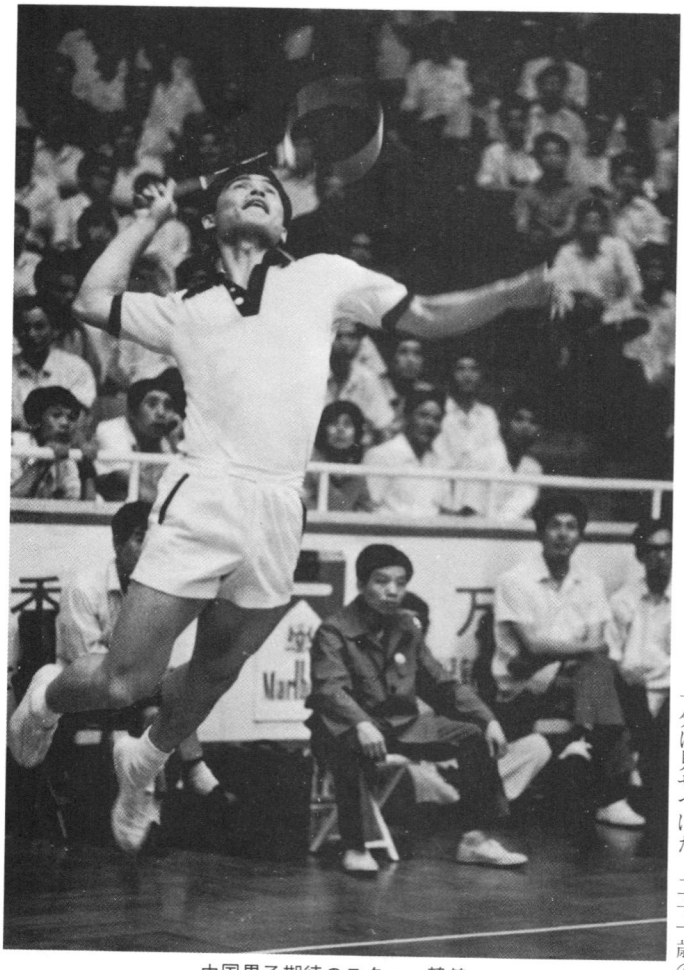
中国は一九七四年テヘランでのアジア競技大会で、3対2の勝利をおさめ、世界バドミントン界にみごとに再登場した。そして二年後、インドのハイデラバッドのアジア選手権大会では、侯加昌はインドネシアのエース、リム・スイ・キンを破って、男

子シングルスに優勝した。中国勢が獲得した四つのタイトルの一つだった。

中国チームは一九七七年香港のアジア招待トーナメントでその実力を発揮して、男子シングルスでは庚耀東が二回戦でリム・スイ・キンを倒した。

一年後のバンコックでの後退は、チームが根本的に変りつつあることによるもの、ベテランが経験の浅いティーンエージャーに変ってきていることによるものだった。

しかし、この方針も若者たちが仕上がり始めていい結果が出てきた。最も有望な男子プレーヤーの中に、二十三歳の韓健がいる。着実なプレースメントを得意とし、相手のすきに重じて奇襲がつづけざまにかけられる。また、十九歳の林義雄と二十一歳の欒勁はいずれも、その力とスピードと深いドライブ・ショットで知られた徹底したアタッカーである。



中国男子期待のスター、韓健

姚喜明と孫志安は共に二十三歳、ダブルスのペアとして傑出した素質の持主だ。お互いのゲーム振りをよく知っているし、非常にネットへの突進が早い。

女子も才能のある選手が多い。その特徴は軽快なフットワークと、手首の柔軟な動きと力強いドライブを駆使したたくみなネットプレーである。

杭州での女子シングルス決勝は、中国女子選手の万能ぶりを十分に見せつけた。二十一歳の傅春娥は年少の韓愛萍に敗れた後、二人の差はほんのわずかのスピードの差だと言っていた。

WBFとIBFとの仲たがいが収拾されるにはあと二年やそこいらかかるだろう。その時までには、中国は、年来のライバル、インドネシアを含む世界最強の仲間入りをするチームができているだろうと確信している。



弱冠17歳のヒロイン・韓愛萍

◆◆着々と準備の進む「日本バドミントン・リーグ」◆◆

男女ともに各5チームが参加

12月8日・東京で火ぶたを切る

きたる12月から「日本バドミントン・リーグ」戦が、いよいよ始まるわけだが、このたび、その運営規程、競技運営細則が決まった。

そのすべてを誌上に発表することはスペースの都合で無理だが、おもなものを要約すれば、以下のとおりである。

〈日本バドミントン・リーグ運営委員会規程〉について

▽目　的

日本バドミントン界の競技力向上と、バドミントン競技の発展と普及をはかる。

▽参加チーム

参加チームは、男女とも日本バドミントン協会に登録された単独チームとし、その数は、男女とも8チームを原則とする。

そして新規参加を希望するチームは、入替戦（後に解説）で勝たねばならない。

▽運営委員会

この構成は、日本バドミントン協会、日本実業団バドミントン連盟、全日本学生バドミントン連盟の三者から、それぞれ若干名の役員を選出し、それによって構成する。

▽オーナー会議

参加チームの代表者と、運営委員会委員長および運営委員若干名によってオーナー会議を構成し、随時、日本リーグの運営および実行について意思の交換を行なう。

▽開催地

日本リーグの開催地は、日本リーグ運営委員会が公募して決定する。

〈日本バドミントン・リーグ競技運営細則〉について

▽登　録

日本リーグの登録は、つぎの(1)、(2)のチームとする。

(1)　その年度の全日本学生大会および、全日本実業団大会の上位チーム。㈱上位チームについては、ベスト4にするかベスト8とするか別途決定する。

(2)　その年度日本バドミントン協会に登録ずみの選手で構成する日本リーグ加盟希望チーム。

このチームは、つぎのいずれかの機関の承認を得て日本バドミントン協会へ途録するものとする。

(イ)　各都道府県協会

(ロ)　全日本学生連盟

(ハ)　日本実業団連盟

(ニ)　日本教職員連盟

▽日本リーグの編成

(1)　原則として男女とも8チームとするが、つぎの場合はチーム数を減らして実施することがある。

(イ)　日本リーグ発足時

(ロ)　日本リーグ発足後出場有資格チームが、チーム事情により出場不可能となり、補充するチームがないとき。

(2)　日本リーグ終了後、入替戦を行ない、リーグ戦の下位と入れ替える。

▽入替戦

入替戦の出場チームは原則として次のとおりとする。

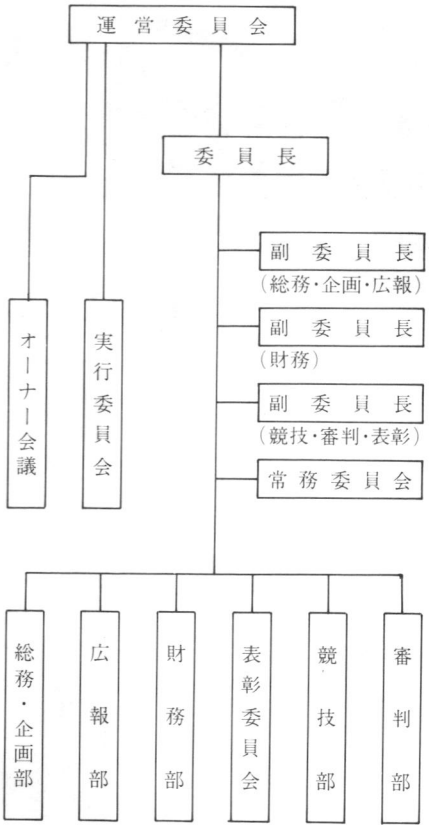
(1)　その年度の日本リーグ男女各下位2チーム。

(2)　2部大会の上位2チーム。

昭和54年度　日本バドミントン・リーグ日程

開催日	開催地	男子	女子
12／8(土)	東京	開会式 河崎ラケット×高岡市役所 電電東京×ヨネックス	日本電装×全日本学生 サントリー×全日本学生
12／9(日)	東京	電電東京×全日本学生 ヨネックス×高岡市役所	日本電装×サントリー 河崎ラケット×ヨネックス
12／15(土)	京都	河崎ラケット×全日本学生	サントリー×ヨネックス
12／16(日)	高岡	電電東京×高岡市役所	日本電装×河崎ラケット
1／6(日)	高崎	河崎ラケット×ヨネックス 高岡市役所×全日本学生	河崎ラケット×全日本学生 日本電装×ヨネックス
1／12(土)	東京	ヨネックス×全日本学生	ヨネックス×全日本学生
1／13(日)	大阪	電電東京×河崎ラケット	サントリー×河崎ラケット

日本バドミントンリーグ運営委員会組織図



入替戦の実施方法は次のとおりとする。

(1) 入替戦は、つぎの組合せでそれぞれ2試合を行なう。

(イ)日本リーグ最下位対2部大会1位。

(ロ)日本リーグ最下2位対2部大会2位。

(ハ)日本リーグ最下位対2部大会2位。

(ニ)日本リーグ最下2位対2部大会1位。

(2) 右記において同率の場合は「順位決定基準」によって順位を決定する。

(3) 2部大会参加チームが、2チーム以下の場合の入替戦は次の方法による。

(イ)2チームの場合は、両者の対戦を行なわず、2部大会の順位はトスによって決定し、それにより組合せを決定する。

(ロ)1チームの場合は、日本リーグ最下位チームと対戦する。

▽2部大会

2部大会は、日本リーグ加盟を希望するチームによって構成され、トーナメントあるいは総当リリーグ戦など、日本リーグ運営委員会が、そのつど決定する方法によって順位を決定する。

▽開催地

開催地は、公共性、経済性、運用性の面から検討し、決定する。また、都道府県庁所在地を原則とする。

▽日程

毎年11月から1月の間、7週間をかけて行なう。土曜日、日曜日、祝日をフルに活用し、転戦については、極力経済性を考慮する。

▽試合

2ダブルス、1シングルスによって勝敗を決定するが、選手は一対抗戦に一回のみしか出場できない（単複兼ねられない）。

オーダーはランク順とするが、ランクはリーグ戦申込時に登録し、日本リーグ競技委員会が認めたものとする。

▽順位決定基準

リーグ戦の順位はつぎの採点によって決定する。

(1) 勝ち試合＝1点、負け試合＝0点、棄権または没収試合＝マイナス1点とし、合計点の多いものから上位とする。

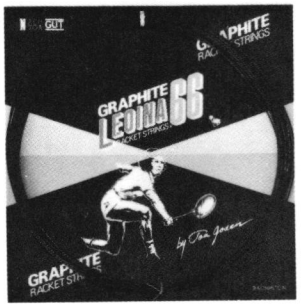
勝ち点合計が2チーム以上同点のときは、取得ゲーム率によって決定する（以下略）。



世界のトーアが贈る
バドミントンガットシリーズ



レオイナ　ホーン
LEOINA HORN S



グラファイト　レオイナ
GRAPHITE LEOINA 66



レオイナ　シープ
LEOINA SHEEP 66



トーア　ストリングス
TOA-STRINGS SSW



トーア　ストリングス
TOA-STRINGS SSW

東亜合繊株式会社

〒658 神戸市東灘区本山中町4丁目7番5号
電話 神戸 078 (441) 2001(代)～5番

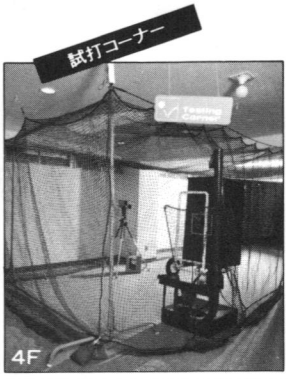
ずらり、4店勢揃い。

渋谷店

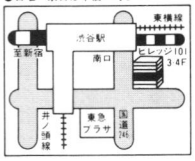
170坪

650㎡の広々とした店内でゆったりショッピング。
試打コーナーも人気上々。





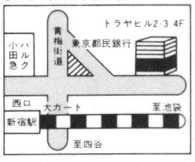
毎月曜日定休
●祝祭日を除く
東京都渋谷区桜ヶ丘町1-7（ヒレッジ101ヒル3-4階）TEL03-464-9251〜2 〒150
●営業時間／午前10時〜午後7時30分
●日曜・祭日は午後7時まで

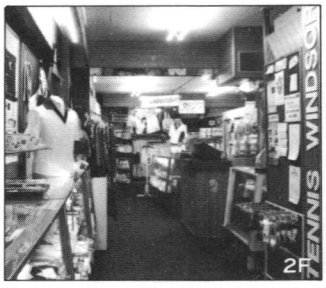


新宿店

落ち着いた雰囲気でお買いもの。各階それぞれの
楽しさがいっぱい。

毎月曜日定休
●祝祭日を除く
東京都新宿区西新宿7-10-20（トラヤヒル2.3.4階） TEL03-363-6848 〒160
●営業時間／午前10時〜午後7時30分
●日曜・祭日は午後7時まで





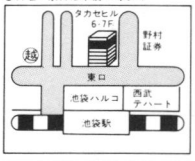




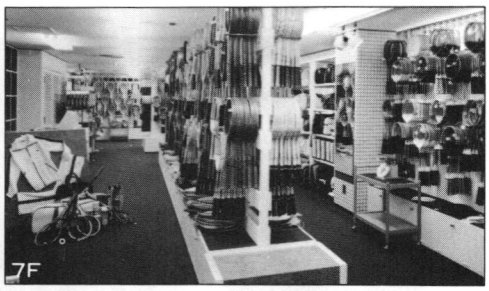
池袋店

つぶ揃いのテニス、バドミントン用品が
店内にあふれんばかり。

毎月曜日定休
●祝祭日を除く
東京都豊島区東池袋1-1-4（タカセヒル6・7階）TEL03-989-0401 〒170
●営業時間／午前10時〜午後7時30分
●日曜・祭日は午後7時まで



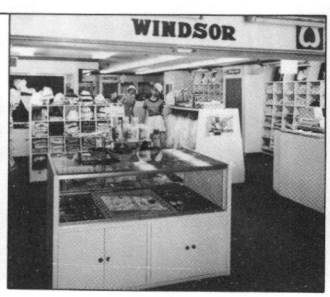




横浜店

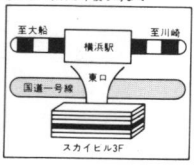
ラケット、ウェア、シューズ……すべてに豊富な品揃え。
選びやすい各コーナー。







年中無休
横浜市西区高島町2-1 横浜駅東口
（スカイヒル3階）TEL045-453-1785 〒220
●営業時間／午前10時〜午後8時
●日曜・祭日も午後8時まで



日本最大のテニス・バド専門店
WINDSOR RACKET SHOP



ウインザー ラケットショップ。

輝かしきスターたち

THE STARS AND HOW THEY TWINKLED

ジャカルタ＝トマスカップ'79から

全英チャンピオンになること8回、現役ですでに伝説的人物となったルディ・ハルトノは、一九七九年のトマス杯をインドネシアは決して手離しはしないと言っていた。

それでも、選手権防衛者であると同時に主催国であるという二重の立場もあって、たとえそういう見通しはもっていたとしても、9対0という予想は述べようとしなかった。最強のデンマークとインドネシアによる決勝は接戦になるだろうと言っていた。

たとえデンマーク勢が、ジャカルタの暑さに参ってしまわなかったとしても、地元インドネシア・チームはすべてにわたってみごとなプレーを見せての楽勝だった。

とりわけ輝かしかった星は、二十二歳のインドネシアNo.1、リム・スイ・キンだった。

すでにウェンブレーで二度つづけて優勝し申し分のないハルトノの跡つぎのようだ。事実、しなやかなそして強健な体をもつキンは、もうハルトノの全盛期以上のスピードがあるのではないかと見ている向きも多い。

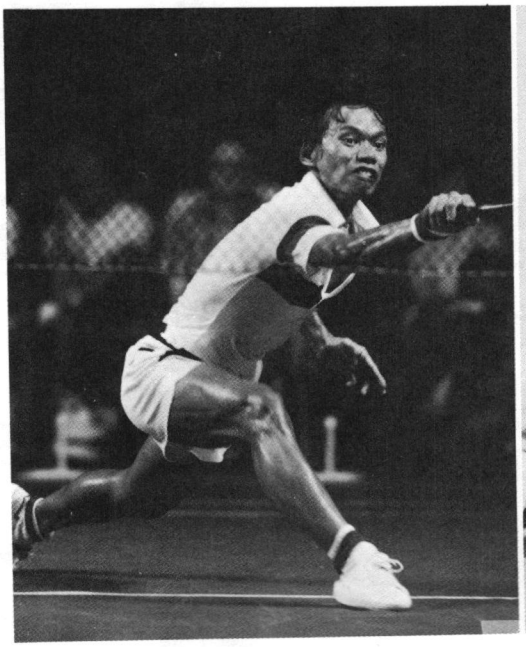
ただ、ハルトノはいつも冷静そのものの気質であり、また、危ない時をうまく乗り切る能力がある。一方キンは、一九七四年アジア大会でのデビュー以来五年の経験を積んでいるにもかかわらず気質が不安定だ。

日本の土田とのゲームでは、つまらないエラーをいくつもやって第1ゲームを落としている。日本の銭谷も第1ゲームを14―10でリードした時にもっと慎重にプレーしていれば、ゲームをとれたかも知れない。

キンは生まれついての敏しょうな体のおかげで、横へあるいは後へと自在に跳び、バックハンド側へのドリブン・クリアーをするどいサイドラインへのスマッシュに変えてしまう。

キンがそういう一発を打ちこんだ時、プリが両手を高く挙げて天を仰いだのを見たことがある。むりもない。きまったと思ったのに無残にも打ち砕かれてしまったのだから!!

インドネシア勢が万全のかまえだったことは、決勝でルイス・ポンゴの代りに反逆児イイー・スミラットを持ってきたことでもわかる。ポンゴは日本勢を相手にうまく戦ったが、大柄でたくましいデンマーク選手相手にはきついと考えたのだろう。スミラットは元気いっぱい休み

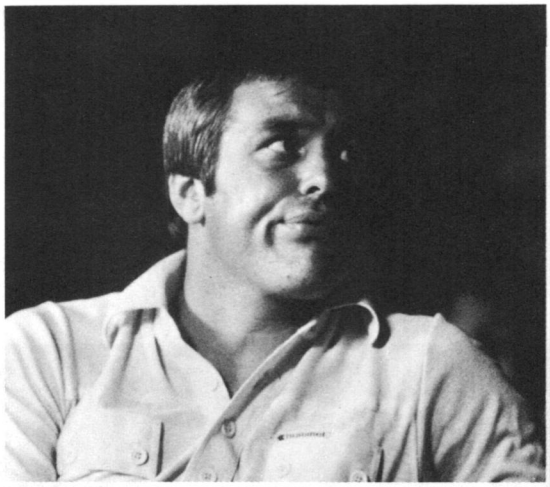


★イイー・スミラット

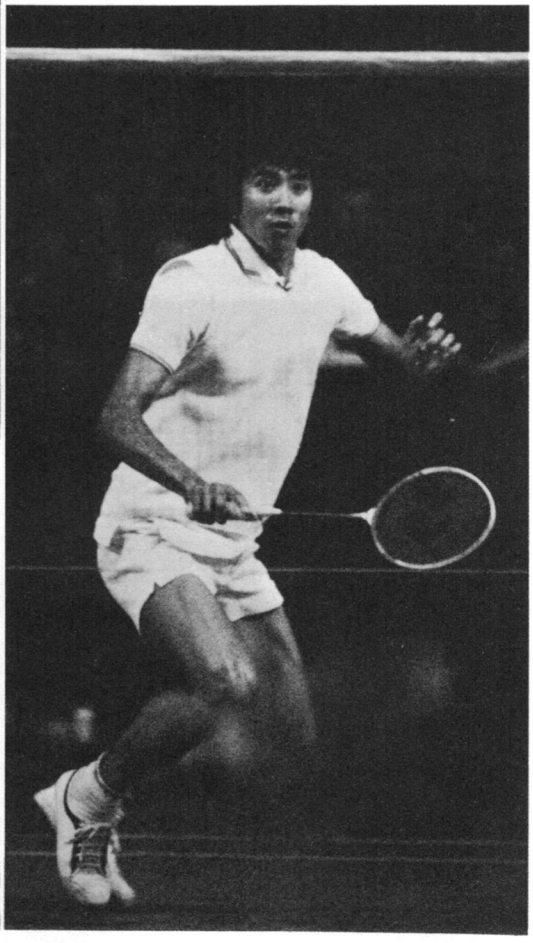


★リム・スイ・キン

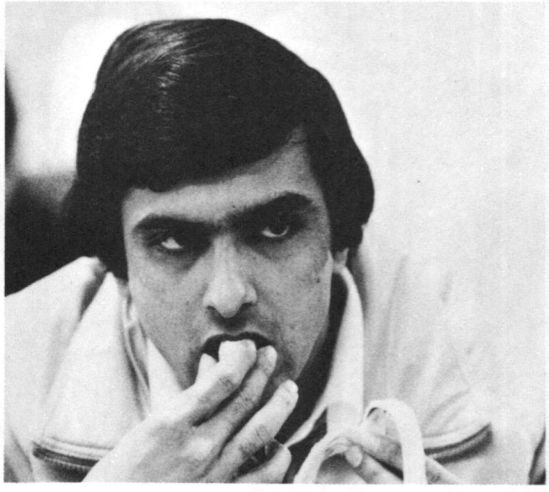
★スヴェン・プリ



★ルディ・ハルトノ



★パデュコーン・プラカシュ



ない攻撃を続け、たゆまずにバードを追った。

インドネシア・バドミントン協会と一度ならずあつれきを起こしたスミラットの絶頂期は、一九七六年のアジア招待選手権で中国のトップ・プレーヤーたちを降した時だった。

今回も、彼の得意とするプッシュもスマッシュもうまくきまって、まったく衰えを見せなかった。

三十歳のハルトノの最盛期をなつかしく思い出したのは、日本の辻との3回戦だった。多少ペースは落ちたものの、ハルトノのプレーぶりは昔とまったく変らない。彼がいまだにコートの王者であることは、一九七七年のワールド・チャンピオン、デンマークのデルクフに楽勝して証明した。ディフェンスとアタックをたくみにおりまぜながら、この大柄なたくましい相手をおびやかし放しだった。

ハルトノとプリの対戦が実現して、七〇年代始めの好敵手がお互い腕を競うところが観られたらすばらしいことだったが、三十三歳のプリに昔日の姿はなく、インドのチャンピオン、プラカシュとの対戦の後半では、足が思うように動いていなかった。そして、最後のプレー、キンとの対戦では、どうしようもないほど疲れ切った様子で敗退した。

ほかにインドのプラカシュも印象的だったが、九か月前からのかかとの故障と彼の気質のむらがプリとの対戦でも災いしたようだ。

若手のモルテン・フロスト・ハンセンは、デンマーク勢の中でも最も有望だが、チャンピオン級となるには国際経験がもっと必要だ。デルフスと同じで、ラウンド・ザ・ヘッド・ストロークよりもバックハンドを得意とする。

日本勢も、銭谷と土田の二人組が健在だった。二人ともこれまでに述べたすぐれた選手たちをかなり悩ませたが、めざましい勝利を手にするには力不足だった。

チャンドラをここ二、三年前から観てきたが、クリスチャンのパートナーとしてもっといい選手を選ばなくてはならなくなるのも時間の問題だと思っていた。

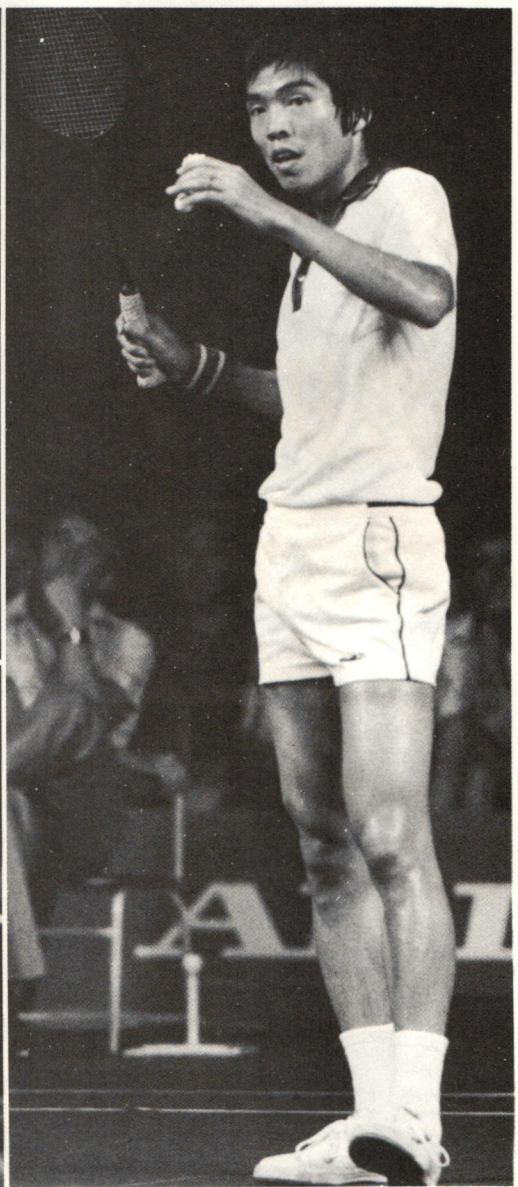
クリスチャンにとってはスピードの遅いチャンドラが問題だった。キンをクリスチャンと組ませてみようというのもそこか

ら来ている。キンはダブルスのプレーの機微には通じていないが、サーブもかなりいいし、どの角度からも休みなく打ちこむことができる。クリスチャンがみごとなネットプレーでチャンスを作り出し、キンが後部から打つ。ヨーロッパ勢もただ翻弄された。

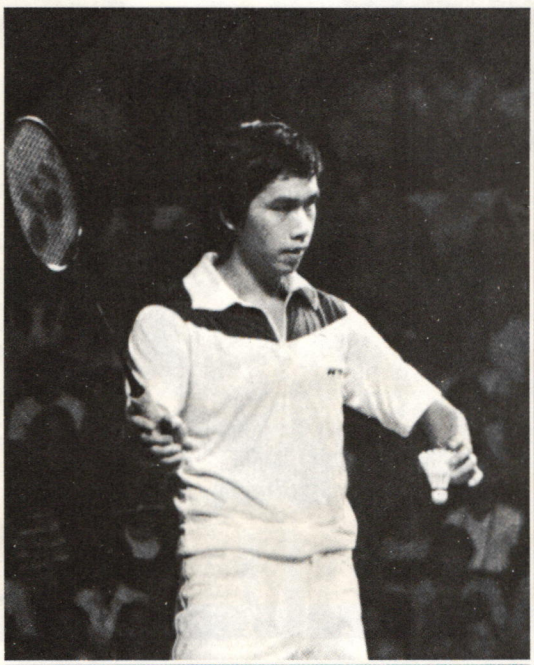
この調子でキンがクリスチャンとダブルスを組んでいけば、次の全英選手権でも、ワジュディ＝チュンチュン組と共に、世界に敵なしとなるだろう。ウェンブレーで大活躍した日本の土田も容赦なく押しつぶされてしまったが、日本勢のプレーがまずかったのではなく、インドネシア勢が速過ぎ、強過ぎただけだ。

こうして、主催国インドネシアは、四回連続、七回目のトマス杯を手にした。そして、十日間にわたり、広々としたセナヤン・スポーツ・センターに毎日集まった数千人の観客は、世界最高のプレーヤーたちのゲームを堪能したのだった。

シリシュ・ナドカルニ
友枝康子訳
（バドミントン　八月号）



★銭谷欽治



★クリスチャン・ハディナタ



★チュンチュン、ヨハン・ワジュディ

kawasaki
河崎ラケット工業株式会社



選択の時代は終った!

kawasaki Badminton

数あるバドミントン・ラケットの中
カワサキ製品は
ひとり群を抜いた。永い独走が始まる。





グラファイトシリーズ
世界初のオールグラファイトラケット
エイトシックス
グラファイトフレーム　グラファイトシャフト
黒(ケース付)
フレーム価格12,000円

限りなき闘志に燃えて



われらのクラブ㉒

金沢市◉材木バドミントン・クラブ

世の中の全てのものが日進月歩と変化成長して行く中で、我がクラブは創部3年目を迎えますが、技術面においては亀のごとく遅々として、ただ部員の年齢が先へ先へと進んでいくのであります。その打開策として、バドミントンに記載された練習方法をみんなで必死に読み、検討して、それらをいかにして身につけるかと努力しているところであります。各編、全部読み終えた時点で、その技術解説が全て身についたような気持になり、銭谷選手や土田選手に明日にでも挑戦してみたい気になりました。

そのような中で、我がクラブは春には合宿までして技術と共に闘志を身につけるべく、朝な夕なに頑張り通しました。M&Mの激励がシャトルにしみ込み、打たれたシャトルが食い付きそうに飛んできました。過去2年間の歩みは、スポーツとしてのバドミントンには部員全員十分満足していますが、競技としては心残りばかりがうっ積しています。数多くのアマチュアの競技会に参加しては、コーチの手きびしい反省が記録に残っていくばかりであります。しかしそんなこともいつしか忘れ去り、次の試合にはどこまで勝てるか、ひょっとしたら優勝だぞ！などと目算ばかりで話題がはずみます。部員全員の心の中には、いつの日か自分が優勝候補としてランクされる試合を待ち望み、汗のしたたるのもぬぐおうとせず、練習に励んでいます。

部員の中のあるママさんは、最初練習がつらく「今日は子供が病気なので」（本当は元気いっぱい）といって欠席していた時もありましたが、少し打てるようになった今では、「子供が病気であっても」練習に参加するようになった人もあります。またある人は、試合前日からあがり過ぎて一日食事がのどを通らず、手がふるえ目がかすみ、自分の心臓が頭の方へ転移したのではないかと真剣に考えこむ人もいました。

我がクラブも年に1回は部内の交歓試合が催されます。こうなれば日頃の味方もこの時ばかりはにっくき敵であり、この機会に鼻をあかしてやるべく秘密練習を行ない、きたるべくその日まで胸をときめかし、あの手このべくその日まで胸をときめかし、あの手この足？　と思考にふけり、夜中に突然として家の中でラケットを振り出す次第で、さぞかし不可思議な光景だろうと思われます。試合には看板もあがり、湯茶その他のサービス盛りだくさん。ひょっとしたらワールドカップよりすばらしいものではないでしょうか。

部の組織が充実していて、各係の中には宴会係と言ったものもあり、会則もなかなかかっこよくできている次第です。家庭的なクラブなるがゆえに、多くのエピソードが生まれ、それらがクラブの基盤となり、またバドミントンをより愛好することにもなっています。

〝バグース〟（インドネシア語の「最高」という意味）を目指し、クラブ員は日々一羽根をも惜しんでラケットを振り、限りなき闘志でもって明日への期待と希望につなぎたいと願っています。

YONEX®

ボディの美しさから出発した、主張のあるスポーツウエア。
単にかたちだけに流れず、単に機能だけに片よらない、新しい発想のスポーツウエアの誕生です。デザインは、あの三宅一生。このほかヨネックスには、オリジナルなスポーツウエアや、日本バドミントン協会推薦のスポーツウエアをずらりそろえています。

プレイヤーの声から、使いやすさをカタチにしたバッグ達。
ヨネックスのスポーツバッグの大特徴は、それぞれのデザインに、用途別にセブン・スリー・ワンと3種類あること。長期遠征用・短期遠征用・当日大会用と使いわけることができます。バッグにT.P.O.を持ちこむなんて、ヨネックスならではのアイデアとは思いませんか。ともかく、ヨネックスでかためると強い。

ヨネックスを着る。
ヨネックスを持つ。
勝てそうだぞ。

Flemming Delfs
フレミング・デルフス（デンマーク）



世界初のオールグラファイトラケット
エイトシックス

グラファイトフレーム・グラファイトシャフト/黒(ケース付)
フレーム価格12,000円　ガット張り上り価格12,900円(ロンシープ)



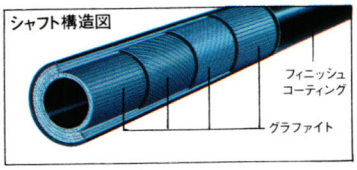
RACKET kawasaki
河崎ラケット工業株式会社

用により、ショット時のフレーム部のたわみが最適に作用し、たまもちが一段と良くなりました。これがスイートスポットの広がったと言われるところです。

打球をパワフルに——グラファイトシャフト

シャフト部は、グラファイトをタテ2層、左右ナナメに2層、計4層を組んで構成。(多重交差グラファイト)
多重に交差させることで、グラファイトの剛性を強力なバネに変えるので、エキサイトしたプレイ中に起きるラケットのねじれや、ぶれを最少限にとどめます。

エイトシックスを使うことにより、レシーブ能力、攻撃力とも更にアップし、いままでにない安定したプレイにつながります。



新鮮な打球感!

振動吸収力をアップ

科学的な実験により、グラファイトの振動吸収性の良さは実証ずみ。エイトシックスの使用は、プレイ中の疲労度を軽減させます。

ラケットの強じん化

グラファイトの強じんさが、そのまま生かされているので、どんな強い振りに対しても、曲がり、ねじれの心配がありません。

新鮮な打球感

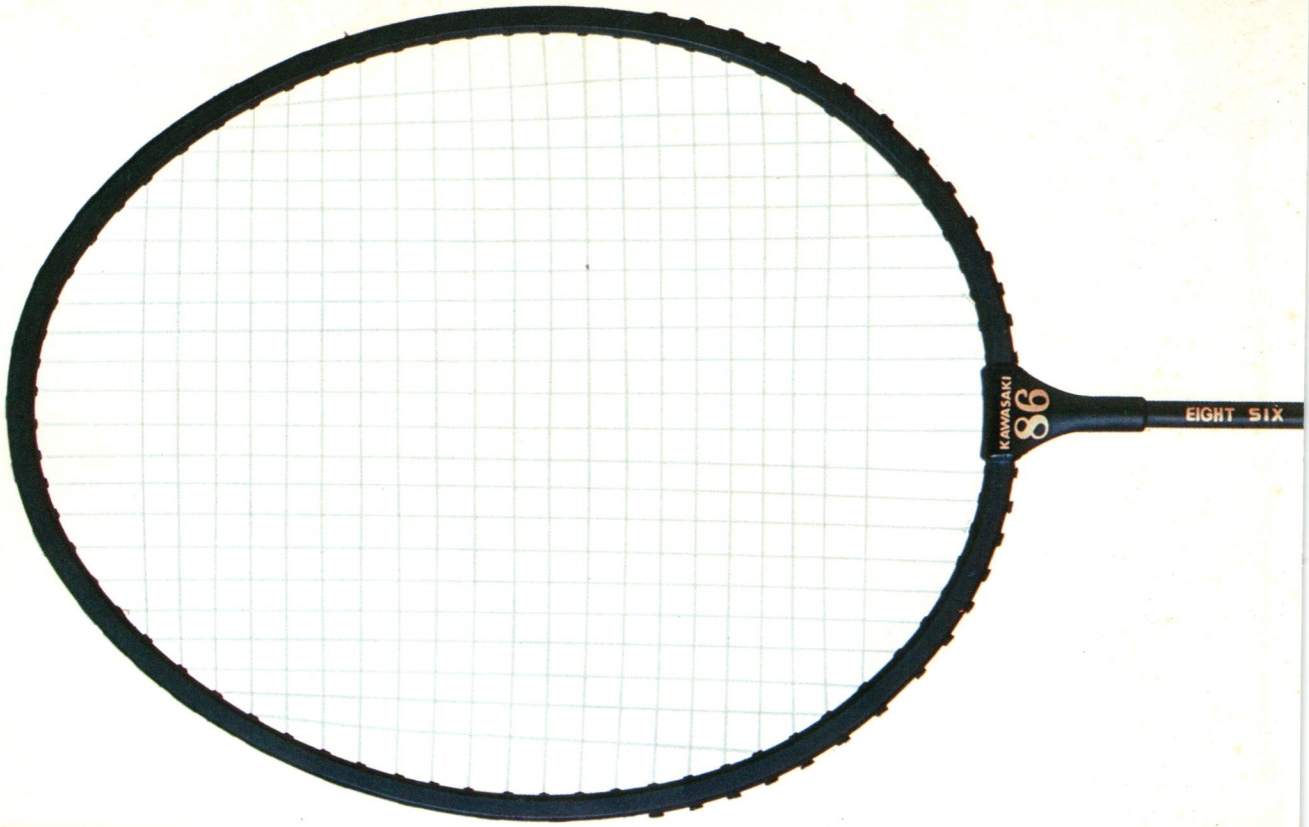
振動吸収性の良さ、しなり、たわみ具合の最適さなどが融合され、エイトシックスの打球感は全く新鮮なものになりました。新しい打球感の体験は、プレイに新しい発見をもたらします。



エイトツウ
シルバー(ケース付) グラファイトシャフト・アルミフレーム
フレーム価格8,000円 ガット張り上り価格8,900円



エイティ
黒(ケース付) グラファイトシャフト・ウッドフレーム
フレーム価格8,000円　ガット張り上り価格8,900円

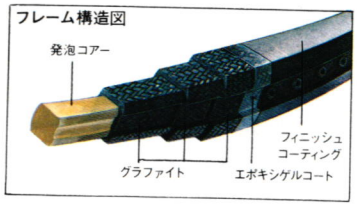


GRAPHITE

エイトシックス。このラケットの誕生は世界のバドミントン界に、ハリケーンを巻きおこし、カワサキの時代が到来したことを感じさせます。既に発売中のエイティ(B-80)・エイトツウ(B-82)は、100%グラファイトシャフト使用のラケットとして、その打球感の良さが一流プレーヤーの喝采を浴びました。
今、新登場のエイトシックスは、グラファイトを更にフレーム部にも採用。従来のグラファイトシャフトと一体となり、世界初のオールグラファイトラケットとして登場しました。他の新素材を使っただけのラケットと比較して、違いがはっきりわかるラケットの完成です。

しなやかな剛性 —— グラファイトフレーム

エイトシックスのフレーム部は、三層の編組グラファイト(数百万本のグラファイト繊維を編む)で構成され、表面はウレタンコーティングで手ざわりの良さ、仕上げの美しさなどが加わり高級感を出しています。



カワサキはなぜグラファイトを編むのか!

グラファイトの剛さと軽さは宇宙工学の分野の素材として使用されていることでも実証されています。
その剛さと軽さに、ラケットとして理想的なしなやかさをどう融合させるか——。
カワサキは独自の“編む”という技術によりグラファイトを、剛く、軽く、しかもしなやかな素材へと変革させました。
カワサキ技術陣の大きな功績です。

広くなったスイートスポット

エイトシックスは、編組グラファイトの使

kawasaki Badminton



グラファイトシリーズ





オールカーボンシャフトとウッドフレームによる

世界初の超軽量

XL級 105g～109g

コンピュータとキャリアが生み出した
100％カーボン・ロングテーパーシャフト
軽さと強さをかねそなえた
スーパーラケットの登場！

Carbon Slugfest

カーボンスラッグフェスト　B-85・B-80

日本バドミントン協会推奨

■プレーヤー待望のパーフェクトラケット完成

より高度に、そして多彩になっていくバドミントンのプレーテクニック。そのすべてのプレーに一本のラケットがパーフェクトに対応します。ゴーセンが開発した100％カーボン・ロングテーパーシャフト『カーボン・スラッグフェストB-85・B-80』。プレーヤーの強い要望に応えた理想のラケットの登場です。

■電子頭脳が答えた理想の構造

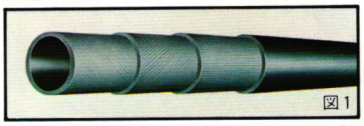


図1

20世紀の科学が生んだ最高のラケット素材《カーボン》。このカーボン繊維を、ラケットの生命といわれるシャフト部分に使用。この素材特性をいちばん効果的に発揮させるため、図①のように方向の異なる繊維を3層に組み合わせました。この構造図式は、理想のラケットを創り出すという前提のもとに、コンピュータがはじき出した答えです。

さらにもう一歩理想に近ずくため、この構造によるシャフトのロングテーパー化をコンピュータは指示しました。

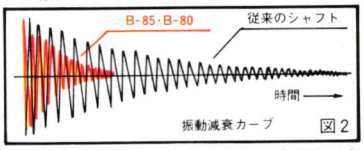


図2

最良の理論――これを製品として実現させたのはゴーセンの技術力。カーボン究極の特性を安定して確保し、世界でも類を見ない100％カーボン・ロングテーパーシャフト化に成功しました。

■カーボン・ラケットの決定版

細部にわたる測定テスト。このB-85・B-80はすべての点で他のカーボン・ラケットをしのぎました。カーボンの特性をこれほど完璧にいかしきったラケットは見当りません。



■B-85・B-80の特色

- 超軽量XL級(105g～109g)
- 高反発／高弾性（強く、鋭い打球）
- 高強度(優れた耐久性)
- 迅速な振動減衰性（打球後のラケットの安定。図②参照）
- 高応答性(打球の手応え)まさに長所総づかみ。

カーボン・ラケットの決定版！堂々と登場です。

カーボンスラッグフェスト

B-85(黒)・B-80(白) ¥7,500

- バンブー・ウッド合板
- 100％カーボン・ロングテーパーシャフト
- カバー付



GOSEN

本　　社●〒540 大阪市東区豊後町4　☎ (06)942-5816(代)
東京支店●〒111 東京都台東区蔵前4-14-2 ☎ (03)862-6576(代)
福岡営業所●〒810 福岡市中央区薬院1-4-8 ☎ (092)712-5247(代)
北陸営業所●〒921 石川県金沢市横川7-22 ☎ (0762)47-0200(代)



反発の創造。

ゴーセンバド・ガット●ウインテックスシリーズ / ハイ・シープシリーズ

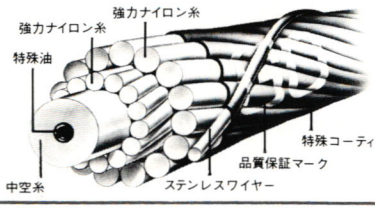
世界に誇るゴーセンのガット技術。

世界15か国でパテントを取得。

世界的なガットスペシャリストGOSEN。その証明は世界15か国におよぶパテントの取得。日本はもとより世界各地のファンを魅了したガットの数々。それはまさにゴーセンならではの技術における《完成度の高さ》を示すものです。

■中空糸・特殊油入り(PAT. 1106964)

糸の芯部分を空洞に。この中空部分が打球に鋭い反発を促進。また打球音・打球感も抜群なものにします。この中空糸の中に特殊油を注入。この油がガット表面に粘着し、油まくがガットを外気(乾燥、湿気など)から守り、ガットコンディションを完全キープ。



■ステンレスワイヤー巻き付け(PAT. 1212170)

ガットにワイヤーを巻き付け。ワイヤーは一定間かくでらせん状に糸に食い込み、ガットを強く張った状態に固定。ガットの伸びやゆるみを防止。強い打球を促進。

このように特許を取った技術の他にもゴーセンは●**カーボン混入**●**ゲージの超細化**など他にはマネのできない技術でプレーの向上に貢献しています。

Wintex WIRE ウインテックス・ワイヤー

No.1900W……¥800 (10m・ゲージ0.85㎜)
●超強力糸●中空・特殊油入り
●ステンレスワイヤー巻き付け

ゴーセンの技術ノウハウをすべて傾注。スーパーガットとして仕上げました。中空・特殊油・ワイヤーの効果がそれぞれに相乗して、抜群の反発力を生み出します。同時にパワーとスピードにあふれた打球をも可能にし、まさにオールマイティ。多様化するバドミントンのプレーテクニックにみごとに対応できるガットです。

油・ワイヤーにより乾燥や湿気もシャットアウト。常にベストのガットコンディションでプレーにのぞめます。



※類似品にはくれぐれもご注意ください。

GOSEN
本　　社●〒540 大阪市東区豊後町4　☎ (06)942-5816(代)
東京支店●〒111 東京都台東区鶯前4-14-2　☎ (03)862-6576(代)
福岡営業所●〒810 福岡市中央区薬院1-4-8　☎ (092)712-5247(代)
北陸営業所●〒921 石川県金沢市横川7-22　☎ (0762)47-0200(代)

Judy Hashman and C. M. Jones

STARTING BADMINTON

これから始める人へ

スターティング バドミントン

10月20日発売

初心者から中級者向けに、わかりやすく具体的に解説

訳＝後藤忠弘

技術解説（ワンポイント・アドバイス）＝栂野尾昌一・悦子夫妻

B5判変形（205ミリ×182ミリ）・128ページ・定価1,200円

★　★　★

事実上の世界選手権といわれる全英選手権大会において、シングルス優勝10回、ダブルス優勝7回という驚くべき史上最強のプレーヤー、ジュディ・ハッシュマン夫人が、ジョーンズ氏の協力を得て、初心者から中級者を対象に、わかりやすく解説。

初心者がいちばん頭を悩ます練習方法については、「コート図を示し、どのように練習したらよいかを、目的別に具体的に説明しているので、ぜひコートサイドに本書を持ち込んで練習にとり入れてください。

また、イギリスと日本の事情の違いなども、栂野尾昌一・悦子夫妻が、親切な〝ワンポイント・アドバイス〟をつけているので、さらにわかりやすくなっています。

全国主要書店スポーツ書コーナーで10月20日発売もし品切れの場合は、送料160円を加えて、本誌巻末とじ込み振替用紙に必要事項ご記入のうえ、お近くの郵便局からお申し込みください。

〒150東京都渋谷区神南1-1-1
岸記念体育会館内
日本バドミントン協会出版局
バドミントン界編集部







CARBO DELUXII

S-79

新製品

カーボデラックスII

カーボデラックス同様、オールカーボンシャフトを使用し、特殊合金フレームをプラスして全て新しいタイプのラケットとして、ここに誕生しました。より軽くそしてよりスピーディでパワーフルな条件をすべて兼ね備えたまさに現在にマッチした、最高のラケットと云えましょう。あなたも最高のラケットでプレーしてみませんか？

CARBO DELUX

S-77

カーボデラックス

スチールカーボンシャフトとは違い、純然たるオールカーボンシャフトを使用。その弾力性は従来のスチールシャフトにないすばらしい反撥力を生みだし、多くの反響を呼んでおります。シャフトを若干太くすることにより左右のブレを解決していますので、アタックにレシーブにこの新しい魅力を十二分に発揮させて下さい。

SunBatta

第22回全日本社会人バドミントン選手権大会

8月25日～28日●松江

伏兵 土田・原田組複を制す

土田は混合複にも優勝

第22回全日本社会人バドミントン選手権大会は、8月25日から4日間、島根県松江市にある市総合体育館、白潟体育館で行なわれました。

残暑厳しい中、連日の強行スケジュールにもめげず、選手たちは熱戦を繰り広げました。

▼一般男子シングルス5回戦

長谷川 進 2—0 高橋 俊則（石 川）
長谷川博幸 2—0 遠藤 好男（東 京）
飯野 佳孝 2—0 高真 広（東 京）
銭谷 欽治 2—0 高木 勝弘（東 京）
宮崎 克己 2—0 西村 金治（大 阪）
土田 証雄 2—0 栂野尾昌一（東 京）
辻 敏弘 2—0 堂谷内 均（東 京）
日下 昇 2—1 鈴木 裕（香 川）

▼同準々決勝

長谷川（博） 2（15—10 15—7）0 宮崎
銭谷 2（15—10 15—9）0 飯野
長谷川（進） 2（15—11 15—4）0
土田 2（15—7 15—8）0 辻
辻 2（15—5 15—12）0 日下
銭谷 2（15—2 15—3）0 長谷川
土田 2（15—7 15—8）0 辻

▼同準決勝

銭谷 2（15—10 15—13）0 土田
（銭谷は3年ぶり2度目の優勝）

▼同決勝

銭谷 2（15—10 15—13）0 土田
（銭谷は3年ぶり2度目の優勝）

▼一般男子ダブルス4回戦

鈴木・高橋 2—0 高真・出石（新 潟）
栂野尾・飯野 2—0 高木・米山（東 京）
田所・土田 2—0 高岡・神戸（東 京）
辻・長谷川 2—0 佐藤・平沢（北海道）
遠藤・池田 長谷川・桝（東 京）2—0 田
池田・尾崎 2—0 和田・松口（東 京）
銭谷・中井 2—0 増田・西村（東 京）
木村・遠藤 2—1 米・原（北海道）

▼同準々決勝

栂野尾 飯野 2（15—12 15—11）0 鈴木 高橋
田所 土田 2（4—15 15—1 キケン）1 辻 長谷川
池田 尾崎 2（15—7 15—5）0 遠藤 池田
銭谷 中井 2（15—13 15—6）0 木村 遠藤

▼同準決勝

田所 土田 2（15—10 15—7）0 栂野尾 飯野
池田 尾崎 2（15—13 15—9）0 銭谷 中井

▼同決勝

池田 尾崎 2（15—8 15—10）0 田所 土田
（池田・尾崎組は5年ぶり、2度目の優勝）

▼30歳以上男子シングルス準々決勝

河野 啓樹 2—0 野津 良文（京 都）
白井規久夫 2—0 田中 博美（京 都）
山本 敏彦 2—0 北村 伸（福 井）
松尾 益吉 2—0 永井 博（島 根）

▼同準決勝

河野 2（15—10 15—8）0 白井

山本 2 (15-1, 15-10) 0 松尾

▼同決勝

河野 2 (15-5, 15-7) 1 山本 (河野は初優勝)

▼30歳以上男子ダブルス準々決勝

河野・永井 2—0 杉田・鈴木 (京都)
松尾・日野 2—0 田中・藤本 (島根)
芳上・藤原 2—0 須田・馬場 (岡山)
野津・船江 キケン 日下部・滝 (島根) (静岡)

▼同準決勝

河野 2 (15-4, 15-11) 0 松尾 日野
芳上 藤原 2 (15-9, 15-5) 0 野津 船江

▼同決勝

芳上 藤原 2 (15-6, 15-9, 10-15) 1 河野 永井 (芳上・藤原組は初優勝)

▼40歳以上男子シングルス準決勝

西田・寿明 2—0 藤川 俊雄 (熊本) (東京)

元田 敦海 2—1 星野 忠男 (熊本) (島根)

▼同決勝

西田 2 (15-2, 15-9) 0 元田 (西田は2年連続2度目の優勝)

▼40歳以上男子ダブルス準決勝

西田・南 2—0 星野・森山 (熊本)
高橋・山田 2—0 元田・福島 (神奈川) (熊本)

▼同決勝

西田 2 (15-3, 15-3) 0 高橋 南 山田 (西田・南組は2年連続2度目の優勝)

▼50歳以上男子シングルス準決勝

毛利 清志 2—1 柳田 直規 (岡山) (東京)
浜中 誠 2—0 曽根 徳郎 (愛媛) (京都)

▼同決勝

浜中 2 (キケン) 0 毛利 (浜中は初優勝)

▼50歳以上男子ダブルス準決勝

柳田・平田 2—0 八木・尾崎 (東京) (兵庫)

浜中・森脇 (愛媛) 2—0 曽根・紀田 (東京) (京都)

▼同決勝

柳田 平田 2 (15-11, 15-8) 0 浜中 森脇 (柳田・平田組は3年連続3度目の優勝)

▼一般女子シングルス4回戦

湯木 博恵 2—0 飯野 裕子 (東京) (千葉)
高田 幹子 2—0 栂野尾悦子 (大阪) (東京)
関根 和子 2—0 渡辺多喜子 (東京) (東京)
米倉よし子 2—0 葛西 明子 (東京) (大阪)
近藤 小織 2—0 横山ナルミ (東京) (大阪)
東海林文子 2—0 小寺 裕美 (大阪) (岡山)
大塚ソノエ 2—0 原口 恵子 (東京) (大阪)
千葉 陽子 2—0 野中 弘美 (東京) (大阪)

▼同準々決勝

湯木 2 (11-2, 11-3) 0 高田
米倉 2 (11-7, 11-2) 0 関根
近藤 2 (11-4, 11-9) 0 東海林

大塚 2 (11-7, 11-7) 0 千葉

▼同準決勝

湯木 2 (11-5, 11-2, 6-11) 1 米倉
近藤 2 (11-6, 11-3) 0 大塚

▼同決勝

湯木 2 (11-1, 12-9) 0 近藤 (湯木は7年連続7度目の優勝)

▼一般女子ダブルス3回戦

近藤・渡辺 2—0 昌子・藤原 (東京) (島根)
土田・原田 2—0 飯野・宮野 (東京) (千葉・石川)
東海林・原口 石田・小寺 (大阪) 2—1 (岡山)
沢内・千葉 2—0 石垣・中川 (東京) (石川)
関根・大塚 2—0 杉田・宮本 (東京) (神奈川・東京)
日山・日向野 2—0 横山・葛西 (栃木) (大阪)
米倉・三田 2—0 川崎・久米 (東京) (大阪)
平井・山田 2—0 山口・濱田 (香川) (山口)

▼同準々決勝

土田 原田 2 (15-4, 15-4) 0 近藤 渡辺
沢内 千葉 2 (15-6, 15-7, 8-15) 1 石田 小寺
日山 日向野 キケン (15-6, 9-15, 15) 1 関根 大塚
米倉 三田 2 (キケン) 0 平井 山田

▼同準決勝

土田 原田 2 (15-7, 15-6) 0 沢内 千葉
米倉 三田 2 (15-2, 15-11) 0 日山 日向野

▼同決勝

土田 原田 2 (15-9, 17-16, 3-15) 1 米倉 三田 (土田・原田組は初優勝)

▼30歳以上女子ダブルス決勝

小川 徳田 福住 2 (キケン) 0 三井 (東京) (東京)

▼40歳以上女子ダブルス決勝

白倉 沢瀬 水口 2 (15-4, 15-8) 0 伊賀 (東京) (京都)
(白倉・水口組は2年連続2度目の優勝)

▼混合ダブルス3回戦

斉藤・渡辺（東京）2—1（新潟）鈴木・平野

根岸・千葉（東京）2—0（岡山）藤原・石田

今井・近藤（東京）2—0（愛知）梶川・二川

土田・土田2—0山崎・宮本（東京）（神奈川・東京）

田所・原田（東京）2—0（神奈川）杉田・杉田

大場・飯野（千葉）2—0（東京）山村・稲垣

梅野尾・梅野尾（東京）2—0（東京・香川）市村・山田

堺・湯木（東京）2—1（神奈川）斧・松田

▼同準々決勝

斉藤 渡辺 2 — 1 根岸 千葉（15—6 3—15 15—7）

土田 土田 2 — 0 今井 近藤（15—11 15—2）

田所 原田 2 — 0 大場 飯野（15—10 15—12）

梅野尾 梅野尾 2 — 0 堺 湯木（キケン）

▼同準決勝

土田 土田 2 — 0 斉藤 渡辺（15—5 15—11）

梅野尾 梅野尾 2 — 0 田所 原田（15—3 15—8）

▼同決勝

土田 土田 2 — 1 梅野尾 梅野尾（15—4 15—10 11—15）

（土田夫妻は初優勝）

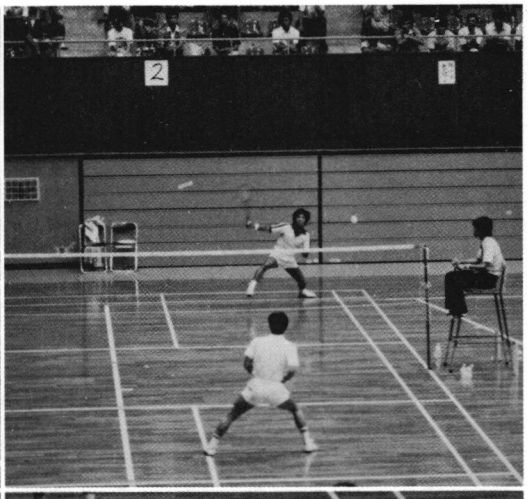
全日本クラスの試合になるといつも、ほとんどが同じメンバーで上位を争うことになってしまいます。今大会もその例にもれず、男女シングルスはほぼ予想通り。男子ダブルスにいたっては、6月の全日本実業団とまったく同じ顔ぶれで優勝を争いました。

その中で女子ダブルスは、徳田・高田（サントリー）が出場しなかったこともありますが、試合前から予想がむずかしいと言われていました。その混戦の中からはい上がったのが、土田・原田組。

そこでこのお2人に優勝のエピソード、近況などを語っていただきました。

▼土田美加選手の話

膝を故障してから、随分長い間ブランクがあったので、今大会の優勝はとてもうれしく思います。大きな大会は今年に入って6月の実業団以来2つ目なんですが、あの頃にくらべると膝



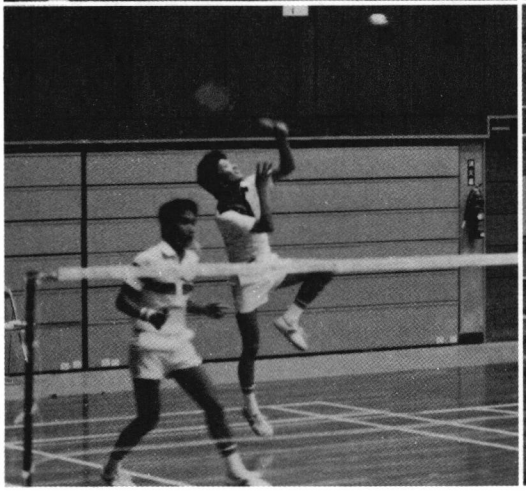
銭谷対土田の決勝



池田・尾崎組は楽勝



再び上昇ムードの湯木



惜しくも途中キケンの辻・長谷川組

の痛みもとれ、自分としてはコンディションは良い方だったと言えます。本当はシングルスにも出場したかったのですが、膝のことを考え、トレーナーの先生に止められ、あきらめました。

昔にくらべると、練習量は随分減りました。羽根打ちは週3回で2時間半ぐらいずつ、その他にトレーニングをしています。トレーニングといっても、ウエイトレーニングでは膝への負担が大きすぎるので、アイソメタリックといって自転車のチューブなどを使う方法をとっています。まあ様子をみながらマイペースでやっているというワケです。

原田さんと初めてペアを組んだのは、今年の5月にあった都民大会ですが、この大会のために本格的な練習に入ったのは7月からです。同じ日女体出身なので、まだ彼女が学生の頃私はOGとして大学によく練習に行きましたが、バックハンドのショートサービスがとてもいいという印象があります。実際に受けてみるとよく分かるんですが、とても打ちにくいんですよね。今大会でもそれを強く感じました。サービスがいいというのはダブルスにとって、一番の強みですから。

しかしさっきも言ったように私は膝の故障に悩まされていますが、原田さんも学生時代に膝の手術をしています。「膝の欠陥ダブルス」なんです。そのため、練習の時から多少変則的なフォーメーションで、それをカバーできるような型を2人で考えました。もうパワーに頼るだけの年ではなくなりましたし、相手の攻撃をドライブを多く使ってかわしていくよう心がけました。これは〝だんな〟（御主人土田証雄さんのこと）に練習相手をしてもらう時によくアドバイスされることなんですが…。また、男の人たちに相手をしてもらい、スピードに慣れたことも大変プラスになりました。

この大会で一番きつかったのは、やはり決勝の米倉・三田組との一戦です。第一シードの近藤・渡辺とは試合前の予想に反し、あっさり勝負がつきました。作戦云々よりもマイペースの試合で、気がついてみたらポイントを取っていたという感じです。

今大会前の練習は、電電東京の体育館ですることが多かったため、米倉・三田組とは互いに手のうちを知りつくしているだけに長びき、手を焼きました。練習中は時間の都合で1―1になってもファイナルゲームはせず、引き分けのまま終わることが多く、この大会でやっと結着がついたという感じです。しかしセッティングになると私たちの方が弱く、ほとんどのセッティングを落としていました。

決勝では1ゲーム目を15―3と簡単に落とし、これはゲーム開始直後に原田さんがレシーブフォルトをとられ、これが尾を引いてしまいました。2ゲーム目は14―17と先にゲームポイントを握ったのですが、執拗な粘りに会い、追いつかれてしまいました。いつもなら落としているはずのセッティングなのですが、これをなんとかものにしてからは楽になりました。

コンディションづくりもまずまずだったし、初コンビでの優勝と、今大会は満足できる結果です。これからもなんとか頑張っていきたいと思っています。せめて赤ちゃんができるまではね。

▼原田美智子選手の話

とにかく「無我夢中」でした。仕事が忙がしいため、練習が思うようにできません。週に3、4日がやっとなんです。それも1、2時間程度……。学生時代はほとんど毎日練習していたものですから、自分のコンディションがつかめず、苦労しました。かえって大会中の方が時間はたっぷりあるし、仕事はしなくてもいいし、楽なくらいでした。ですから今大会は食欲も睡眠も十分。体調は良かったと言えます。

美加さんと組んで感じたのは「のびのびプレーができた」ことです。私たちはいつもマッチポイントを握ってからの1本がなかなかとれないのですが、そういう苦しい時の美加さんのちょっとしたアドバイスに随分助けられました。高校、大学を通して、ほとんど同級生としか組んだことがなかったので、今回は勝手が違いましたが、かえってそれが「安心感」につながりました。

美加さんもおっしゃっているように、2人とも膝が悪いのでどうしても前で拾う球が苦しくなってしまいます。そのためレシーブにまわった時でも、完全なサイドバイサイドの守りでなく、どちらかが思いきって前につっこめる体勢を心がけました。美加さんのリードがよかったので、私も思うようにスマッシュが打てました。

決勝の米倉・三田戦は、はじめから「勝てる」と思いました。練習時は、シーソーゲームの繰り返しでしたが、実戦になればやはり三田さんは大きな試合に慣れていないし、思いきって狙っていきました。

今大会は、ダブルスとミックスにしか出場しませんでしたが、これからはシングルスも頑張るつもりです。はやく、仕事と練習を両立させ、自分のペースをつかみたいと思います。

土田美加（旧姓池田）28歳・日本女子体育大学卒業後河崎ラケット勤務。昨年2月、現在ナショナルチームの一員として活躍中の土田証雄さんと結婚後退社。今は、プレーヤーと主婦業を半々。49年オールジャパンでは湯木選手と組み、ダブルス優勝。50年オールジャパンでは今井選手と組み、ミックス優勝。

原田美智子　22歳・今春日本女子体育大学卒業、現在は都内の銀行勤務。大学4年時のインカレでダブルス3位。春秋のリーグ戦ではポイントゲッターとして活躍。

３連覇に涙飲む

女子



連勝街道ばく進の熊本県



健闘した松田選手（大阪）

▼女子団体1回戦

北海道	3	0	岡山	2	1	東京	2	1	熊本	3	0	徳島	3	0	岩手
兵庫B			愛知			新潟			徳島						

▼同2回戦

静岡	3	0	福島	3	0	奈良	2	1	群馬	2	1	京都	3	0	福岡
佐賀			愛媛			岐阜			広島			鳥取			千葉

兵庫B	2	1	秋田	2	1	高知	3	0	三重	2	1	北海道	2	1	岡山
熊本			富山			青森			福井			栃木			滋賀

▼同3回戦

熊本	2	0	神奈川	3	0	静岡	2	1	宮城	2	1	石川	3	0	山口
東京															

兵庫A	3	0	茨城	3	0	香川	3	0	栃木	2	1	福井	3	0	大阪
福島			奈良			山形			長崎			群馬			都

埼玉	2	1	高知	3	0	三重	2	1	北海道	2	1	岡山	2	1	滋賀
福岡															

▼同準決勝

熊本	2	0	神奈川	2	0	大阪	2	0	埼玉	2	1	滋賀	2	0	岡山
埼玉			茨城			香川			兵庫A			栃木			福井

▼同準々決勝

神奈川	2	1	茨城	2	1	香川	2	0	大阪	2	0	埼玉	2	0	滋賀
宮城			兵庫A			栃木			福井			青森			富山

▼同決勝

三由上村	2														
15	15														
9	2														
15	15														
17	16														
熊本	2	0	大阪												
三由上村	2														
15	15														
9	2														
1															
鴻原	押切														

松田	2														
11	11														
2	5														
0															
森															

鴻原	押切	大阪													
15	15	2													
2	3	0													
0															
内田	赤羽	神奈川													

高峯	2														
12	11	8													
9	4	11													
1															
鈴木															

三由上村	2														
15	15														
9	2														
0															
楠瀬	金子														

無敵、熊本圧巻の

大阪またも熊本

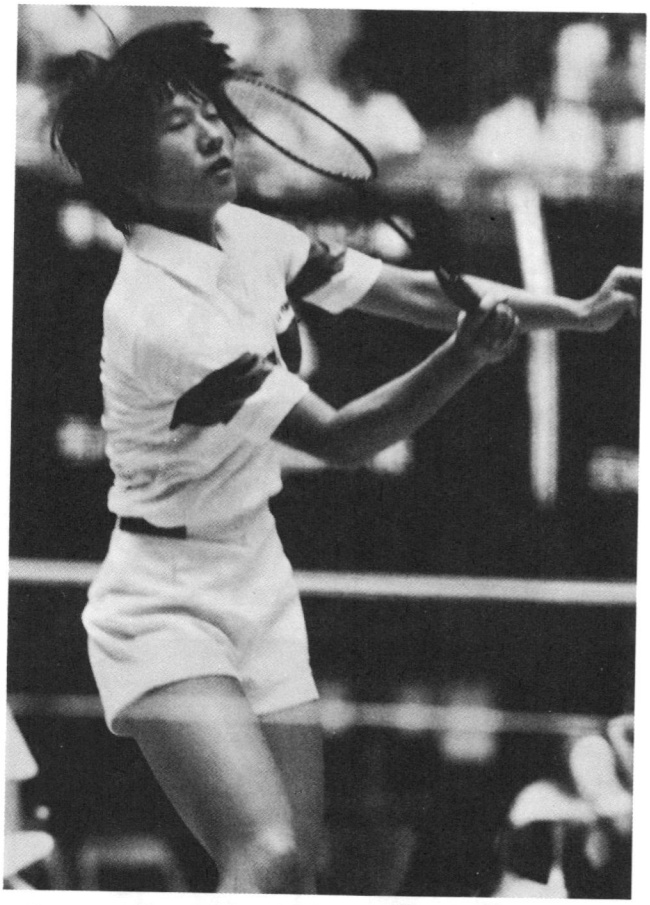
森山2（11—4 11—2）0松田

（熊本県は3連勝4度目）

戦前の下馬評通り、熊本県の圧倒的な強さが光った。

ここに英才教育発祥の地ともいえる熊本の大輪の花が咲いた感があった。

大阪府も、予想通り決勝へ勝ち進んだが、ダブルスに競り負けたのが痛く2年連続して熊本の軍門に下る格好となった。



ナンバー1の呼声高い森山選手（熊本）

熊本は、試合ごとにオーダーを変える余裕を見せたが、この隙につけ込んだのが埼玉県。

第1シングルスの鈴木が健闘して、あと一歩まで攻め込んだが地力の高峯に逆転を喫してしまった。

熊本の主砲は何といっても森山、力強さといい、シャトルに立ち向う脚力、気力とも群を抜いてピカ一の存在であった。

大会前に監督の葦原氏が「99パーセント優勝できる」と豪語したのもうなずける、森山の超中学生ぶりだった。

この森山と双璧と思われていた高峯は、コントロールよくクリアー、カットを配するプレーが、今大会からナイロン・シャトルとなったために持ち味を殺され、実力を充分に発揮することができなかったが、やはり偉材には違いない。

そして、上位には進出しなかったが、キラリと光る素質で目を引いたのが福岡県の1年生・川原。

1メートル50にも満たない小柄な体ながら、伸び伸びしたフォームの良さは最右翼、機敏なフットワークからは並はずれた運動神経をうかがわせるに充分、非力という唯一の欠点を解消すれば福岡県躍進の担い手となるだろう。

総体的には、女子特有の早熟さが手伝って、レベルは男子を凌ぐものがあった。

宮崎国体本競技開始式時被表彰者につきまして次の通りです。

記

●功労賞　山本祐二郎（岩手県会長）、板垣隆房（常務理事）、米沢滋（前実業団会長）、浜中誠（愛媛県理事長）、●国体10回以上出場表彰　木村敏男（北海道）、高野美千子（北海道）、徳永英敏（宮崎県）、●感謝状　西都市

続、初優勝

力紙一重

男子

▼男子団体1回戦

福岡	2—1	広島	
愛知	3—0	高知	
香川	3—0	群馬	
京都	3—0	長崎	
兵庫B	2—1	鳥取	
千葉	3—0	愛媛	
福井	3—0	山口	
青森	3—0	徳島	

▼同2回戦

神奈川	3—0	福岡	
奈良	3—0	宮城	
山形	2—1	富山	
茨城	3—0	愛知	
新潟	3—0	香川	
兵庫A	3—0	三重	
岡山	2—1	京都	
福島	2—1	埼玉	
栃木	3—0	兵庫B	
北海道	2—1	石川	
静岡	2—1	秋田	
滋賀	2—1	千葉	
大阪	2—1	福井	
東京	3—0	岩手	
岐阜	2—1	山梨	
熊本	3—0	青森	

▼同3回戦

神奈川	2—1	山形	
茨城	2—0	新潟	
大阪	2—1	熊本	
栃木	2—1	滋賀	
新潟	2—1	埼玉	
茨城	2—0	神奈川	
熊本	2—1	岐阜	
大阪	2—0	東京	
滋賀	2—0	静岡	
栃木	2—0	北海道	
埼玉	2—0	福島	
新潟	2—0	兵庫A	
茨城	2—0	奈良	

▼同準決勝

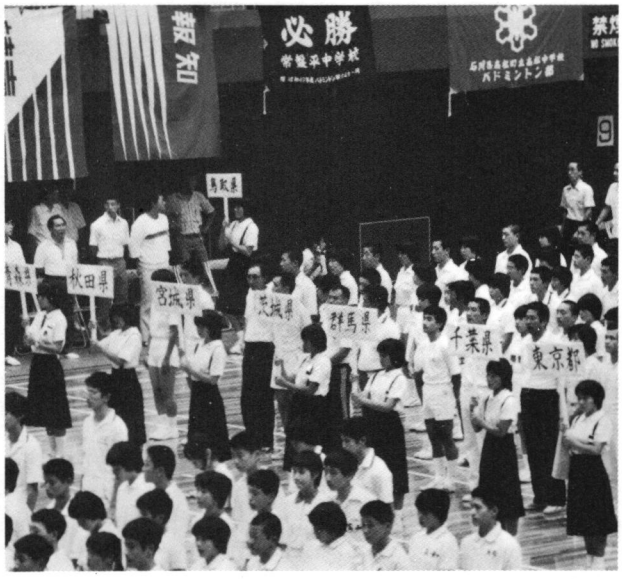
大阪	2—1	茨城	
前川 2	15 15 / 4 7	0 大森	
杉本 2	15 15 / 8 7	0 武田	
福田	4 11 / 15 15	2 手塚	
見市・0		村上	
大阪	2—1	栃木	
大輪 2	15 15 / 1 8	0 小林	
江原 2	15 15 / 11 7	0 中沢	
武藤		石沢	

▼同準々決勝

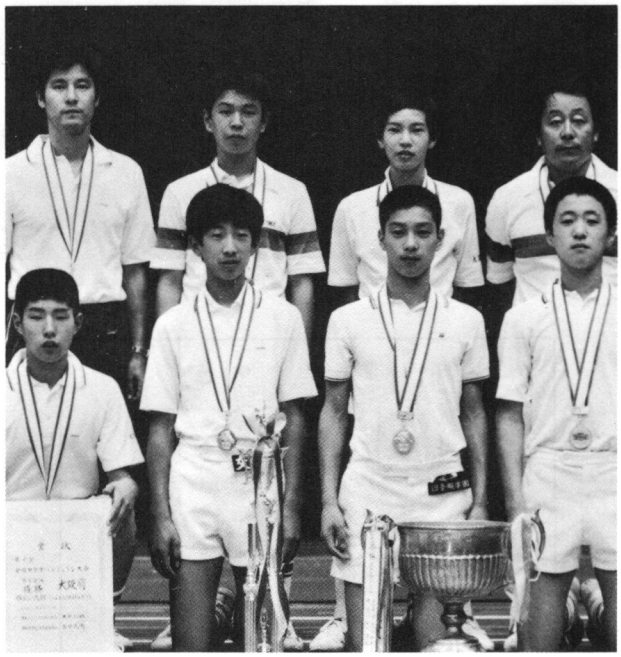
茨城	2—0	奈良	
新潟	2—0	兵庫A	
埼玉	2—0	福島	
栃木	2—0	北海道	
滋賀	2—0	静岡	
大阪	2—0	東京	
熊本	2—1	岐阜	

▼同決勝

茨城	2—1	大阪	
大森	0	前川 2	15 15 / 4 7
武田	0	杉本 2	15 15 / 8 7
手塚	2	福田	4 11 / 15 15
村上		見市・0	
栃木	2—1	大阪	
小林	0	大輪 2	15 15 / 1 8
中沢	0	江原 2	15 15 / 11 7
石沢		武藤	



整然とした開会式風景



感激の初優勝、大阪府

大阪、逆転の連
ベスト8の実

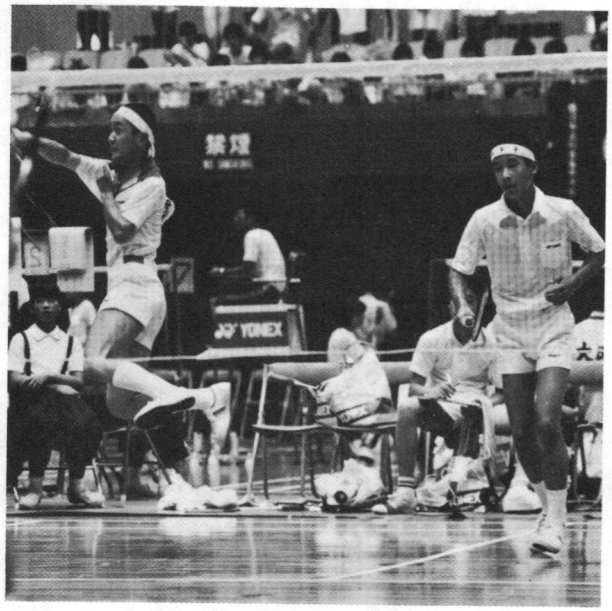
見市
福田 0
5—15 5—15
2 武藤
江藤

杉木 2
15—9 15—8
0 大輪

前川 2
15—10 18—17
0 横尾

（大阪府は初優勝）

このところ毎年のように混戦の続いている男子は、大阪府が準々決勝からの3試合、いずれもダブルスを落しながらも逆転勝ちを収め、劇的な初優勝を飾った。



茨城県も懸命に頑張ったが

前川、杉本両選手が、試合ごとに調子を上げ優勝の原動力となったのは圧巻だった。

これで今まで女子にリードされていた形の大阪府に、待望久しい男子の活躍が望めそうである。

決勝で敗れたとはいえ、茨城県もレベルの高い関東を反映させるような好チームであった。

惜しむらくは、第2シングルスの第1ゲームを取っていたら、と思わせたが、これを落したのが気分的な落胆となって大魚を逃がしてしまった。

しかし、決勝の勝負が紙一重であったように、大会はベスト8以上のチームは甲乙つけ難いものがあった。

全国各地に優勝のチャンスがあった、といっても過言ではない激戦の連続だった。

好選手の粒が揃っていた、といえば聞こえはいいが、裏を返せばどんぐりの背比べ、伸び伸びとした選手よりも試合の駆け引きに長けた、大人びた選手が目立つのも事実。


「ソレッ決まった」「ヤッホー」

体全体から叩き出されたストロークよりも、小手先で調節したような弱々しさが目立っていたような気がする。

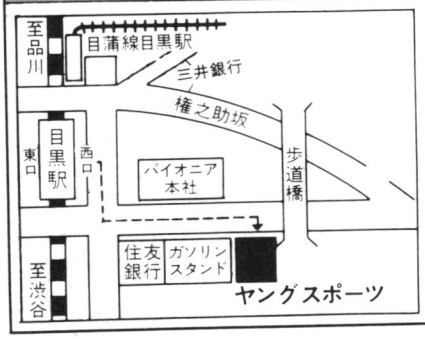
これから将来に厳しい幾多の試練が待ち受けているであろう中学生のこと、全国大会とはいえどもせめて中学時ぐらいは、伸び伸びとプレーさせてやりたいと思うのはうがった見方であろうか。



Liem Swie King
1978年度全英選手権
男子シングル優勝

大量入荷!!

'79バドミントンラケットは カールトンだ!!



ヤングスポーツ

〒153 東京都目黒区目黒1-3-16 目黒駅西口1分 ☎491-7822

日韓高校バドミントン交換競技会に参加して

高校生の選手強化対策充実と痛感

遠井稔男

第12回日韓高校バドミントン交歓競技会は、8月21日より26日まで、ソウル特別市のYMCA体育館で、非常に盛大に行なわれた。

5～6年前から女子が負け始め、3～4年前から男子も勝てなくなってきた。特に韓国は、女子の進境が著しく、現情の日本チームではとても勝てない。数チームの強化校だけの選手づくりから、今では将来を考えた選手養成、対策として中学生に中心を置き変えているともいっていた。

一般大衆にも、日本と同じく非常な勢いで普及しているようだ。その現われとして、開会式には韓国バドミントン協会長高興門氏（国会副議長）が政務多忙中にもかかわらず出席して、2時間以上も試合を応援していた。また観客を動員したわけでもないのに、連日千名近くの人人が集まり、盛んな応援をしていた。ゲームが接戦になるにつれ熱が入り、会場中エキサイトしていた。

大会運営もきちんとしており、日本チームの受け入れも、今までになく完全なものであった。日韓高校大会を、韓国協会が積極的に取り組んでいる現われであると思う。日本協会も、日韓の各交歓競技会を、より充実させることが大切であろう。また高体連バドミントン部も、日本バドミントン協会競技委員会とタイアップして、高校生の選手強化対策を大前提にして推進しなくてはならないと考える。

隣国に強い選手がいるのに、指をくわえて無策でいる法はない。長期休暇を利用して、年3回程度の選抜合宿や、年2回各ブロック選抜合宿を実施するくらいの強化特別体制をつくり、予算的裏付けなど、各ポストで一考しなくてはならないと思う。

韓国に勝つ高校選手が出ることが、将来のトマス杯、ユーバー杯に、より強力なチームの一員になることと信じる。今回の対戦成績は男子が一勝一敗、女子が二敗と、満足する結果ではないが、昨年よりは少しいい。来年はタイに、2、3年後は優勢にしたいと思うのは、無理なことだろうか。

最後に、役員、選手、またご声援をくださった皆さんに心から感謝いたします。

▼8月23日

▽男子

韓国 3—2 日本選抜

忠州実高
孫文培
兪炳煥
1
17—18 15—17 18—16
2
権藤
村上

李徳茂
徐成珉
2
18—14 15—10
0
馬場
高橋

皮大熙
2
18—14 15—8 12—15
1
大島

李徳茂
1
10—15 15—5 11—15
2
権藤

徐成珉
2
15—2 15—4
0
小野口

▽女子

韓国 5—0 日本選抜

聖旨女高
黄善愛
甘明淑
2
15—5 15—9
0
北田
冨田

李明善
柳尚希
2
15—5 15—4
0
高峯
陣内

黄善愛
2
11—6 11—5 5—11
1
北田

甘明淑
2
11—1 11—6
0
原田

李明善
2
11—1 11—1
0
植田

▼8月24日

▽男子

韓国選抜 2—3 日本選抜

鄭鉉押
呉宗煥
1
4—15 15—12 9—15
2
権藤
村上

兪炳煥
孫文培
2
15—8 15—9
0
高橋
大島

▽女子

韓国選抜 4—1 日本選抜

崔栄決
李承淑
2
15—12 15—12
0
北田
冨田

黄善愛
甘明淑
2
15—8 15—4
0
高峯
陣内

崔栄沢
0
4—11 7—11
2
北田

黄善愛
2
11—4 11—2
0
原田

甘明淑
2
11—1 11—2
0
植田

安商佑
1
8—15 15—5 15—4
2
権藤

李得春
2
15—6 15—8
0
大島

李徳茂
1
12—15 1—15 15—10
2
馬場

▼日本選手団▽団長＝遠井稔男▽総務＝山本博▽監督＝別井晃（男子）片岡輝明（女子）▽コーチ＝西田淳二郎（男子）工藤勇参（女子）▽選手＝馬場良浩、小野口正、大島正志、高橋安則（以上今市）権藤浩二、村上英介（以上九州学院）北田スミ子、植田日出子、冨田美千代（以上四条畷学園）高峯和子、陣内貴美子（以上熊本中央女）原田純子（園田学園）

教職員大会初の〝懇親会〟開かれる

全日本教職員大会も今年で18回目を迎え、もっと親睦を深める場を、気軽に話し合える場を、という声に有志の先生方が発起人となって、初めて〝懇親会〟が、大会期間中、九州リコホテルの一室で開かれました。

昔の思い出話に花が咲き、将来の抱負を熱っぽく語り合うなか、地元の〝炭坑節〟が飛び出すなど、終始なごやかなうちに進行、今後の互いの活躍を誓い合っていました。

立食パーティ形式での席、先生方の談話をここに収録いたします。

飛躍の足掛かりに

今井　先

連盟の大会も18回を迎えまして、18回というのは連盟の機関誌ＪＥＦニュースにも書いてありました通り、人間に例えますならば大きな曲がり角、いろいろ問題の起きる年頃だと思います。

今まで教職員連盟は順調に伸びてきたように思うのですが、ここでもうひとつ脱皮しましてさらに飛躍するためには、将来なにか打ち出していかなければならないことが非常に多くあるような気がします。

この際ですね、試合に勝った負けたも勿論大切ですが、それと平行して大会の最中にこのような集まりをもつことも有意義なことではなかろうか、そしてこういったことをひとつの足掛かりにしまして、連盟が飛躍することを是非期待したいですね。そのためには、日本バドミントン協会やバドミントンを愛好する多くの方々のご支援をいただいて、連盟がさらに自分の使命を着実に達成できるようになりたいものだと願っております。

ざつくばらんな席

村尾　隆

昨年の仙台大会から、成壮年に出場したような連中を集めまして、ゆっくり腰を据えて盃を交わしながら、今までのことを振り返り今後どうしていったらいいか話し合いたいということが持ち上がっていた訳です。

総会の中では出てこないような話が、ざっくばらんに出てくるのではないか、そんな席が欲しかったんです。

健康管理も兼ねて

鈴木　祐司

我々も、いろいろな壁に直面している訳だし、話し合う機会が設けられたことは大変に嬉しいことだと思います。楽しいことですね。

わたしは、この大会があることによって自分の健康管理をしてきたし、なかには足をケイレンさせて負けたこともありましたが、年に1回のこの大会があることが励みにもなってきました。

まっ第1回大会から出てきている連中は、皆んな〝キチガイ〟みたいなもんですよ。

生き甲斐を感じる

大世古吉弘

懐かしいメンバーやね。第1回大会からのことを思い出します。第1回の東京大会にこの人（隣りの片岡先生）を連れて行ったんやけども、決勝で負けてしもうて、その頃はまだお腹も（お腹をさすりながら）細かったんだけど……。

だけど毎年、こうして出てくると全国で活躍している〝バドを愛する人〟に会えて嬉しい。生き甲斐を感じます。

昔は、この教職員大会に出てくるために、合宿までしたもんです。懐かしいなあー。

シンドかった第1回

北方　匡

今も話していたんですが、第1回の大世古さんとの決勝は本当にシンドかった。

大会の規模も大きくなって、年令別でも、30代になればすぐ30代に、40代になればすぐ40代に出場しなければ、チャンピオンを取るのは難かしくなりました。後から取ってやろうと思っても取れなくなりました。(笑い)

やはり、熱意ある教職の人たちの存在が一番大切なんじゃありませんか。

仲間と会える楽しみ

本郷　節男

第1回の東京大会からずっと出ているんですが、残念ながら北海道大会だけは出ていないんです。僕は船も飛行機も駄目なんで、でも今から考えると非常に残念で悔やまれます。

これから、成壮年団体の中に50歳代も取り入れてもらいたいし、教職を辞めていかれたOBの方々にも出てもらえたらと、連盟がますます栄えるように手を打たなければと思っています。

若い頃は勝負にこだわるけれども、僕等ぐらいになるとやはり年に1回、全国の仲間と会えるのが楽しみですね。

子達たちを預かる身ですから、親睦と勉強会だと思っています。

18年……感無量

平田登志郎

もう5、6年も前から、一度こういう会を開きたい開きたいと話し合っていました。

初めはそれこそ、3面のコートで試合をしていたくらいで、20～30人が参加して、私の文京二中でやったんですが……、18年にもなるんですね。感無量です。

今は、皆んなの顔を見るのが楽しみで出てきているようなもので……、でもほかの大会にはない味があるような気がします。

全国普及の基

宝来　敏夫

教員の大会がこれだけ大きくなってきたということは、素晴らしいことだと思います。

教育大会がこれだけ大きくなったからこそ、高校生や、中学生や、小学生に普及してきたんだと思います。

団体などで、教員の枠が小さくなるようですが、プレーヤーとしてだけではない教員のメリットを考えて、最小限の枠は続けていってもらいたいですね。

全国行脚の思い出

里見　光徳

僕は、第1回目から役員だけで出場して、プレーヤーとしては1回も出ていないんです。

教員大会の縁の下の力持ちの立場にいる訳なんですが、発足当時は日バのOKを取るのに試合をしながら全国行脚をしたりしました。

初期の頃は規模も小さかったのですが、現在では参加人数を縮小しなければ開催を引き受けてくれるところがないというほどになりました。

第1回決勝の記憶

池田　昌道

私は、第1回大会のシングルスの決勝、大阪の大世古さん、石川の北方さんの審判をやったんですが、この試合が今でも忘れられません。とにかく1時間半におよぶ、歴史に残る大試合でした。2人ともまだ若さにあふれていました。いろいろな試合の審判をしましたが、この第1回の決勝が一番記憶に残っています。

寄稿

熊本・葦原健身

中学生大会のあり方について



元気な声が溢れる大会会場

全国中学校体育連盟は昭和54年4月5日付の文部事務次官通知で「児童・生徒の運動競技の基準」が緩和されたのを受け「昭和54年度全国中学校選抜競技大会基準」を定めるとともに、社会体育として行なわれている大会をも逐次文部省の基準に合った「学校教育活動としての大会」に移行させたい意向をもっている。

今まで中学生大会は「学校教育外活動」として社会体育で行なわれてきているために、教師が引率して行っても服務が出張にならず、したがって出張旅費が出ない、対外競技等業務を対象とした教育特殊業務手当や部活動手当が受領できない、あるいは引率の教師が事故にあっても公務災害補償が適用されないといったことが矛盾として挙げられている。

端的に言うならば「学校教育活動としての大会主張」は、ジュニア層のレベルアップや健全な青少年の育成を図るというよりは、むしろこの矛盾緩和のためにと言った方が的を得ているようである。

しかもこれはあくまで教師の負担を考えての対応策であり、教員以外の職員や学外協力者には関係ないことで、毎日手弁当で指導に携わる者や当事者たる児童・生徒を無視した話といえよう。（お金のためにクラブ指導をしているのではなく、熱心な教師は個人の立場で社会体育に参加しており、やりたくない教師は学校体育となっても参加しない）

中体連基準における参別者資格面での問題点を挙げてみると……。

第一に、参加資格は中体連加盟の学校に在学し当該競技要項により全国大会参加資格を得た者に限るとなっているが、中体連種目でない県・学校にクラブがない者、あるいは所属しない者（社会体育クラブ、民間クラブに所属）の取り扱いはどうなるのであろうか。

学校に部活動がなく、したがって中体連に加盟していないために優秀なる選手が出場できないなどの事態が起りうる今日、メリット有利のために「学校教育活動としての大会」にこだわるあまり「鹿を殺して角を取る」ことのないよう心したいものである。

また大会参加が「学校教育活動の一環」であるとするならば、憲法26条の趣旨にのっとり、義務教育課程の全中学生は組織等のいかんを問わず、均しく教育を受ける権利を有するということになる。

第2に、参加にあたっては地方ブロック大会で選抜された「学校単位」で組織するチームとなっているが、バドミントンは大会創始以来より多くの児童・生徒に出場の機会を与えるために「全県代表制・選抜方式」を採っており、社会体育に支えられてきたスポーツとして「ブロック代表制・学校単位」は絶対に承服できない。

中体連のいう学校体育＝学校対抗という思考には疑問を感じるところであり、我々は一人で

も愛好者がいれば全国大会への道を開放しなければならないし、それがスポーツを愛する者の義務といえよう。（これを可能ならしめるは選抜方式しかない）

第3に、参加生徒の引率・監督は出場校の教員とすると限定しているが、何故教員でなければならないのであろうか。スポーツに情熱をもち、日夜児童・生徒の活動・指導に携わる人ならば誰でもよいではないか。

学校現場においては、教育活動は委縮するばかりで、スポーツ活動に対して教師の参加意欲や指導力がとやかくいわれる現在、教員でなければならないとするは硬直した考えであり、また不可能ではあるまいか。（スポーツを教育活動と考え、教員特殊業務手当が教員のみ支給、部外協力者の身分保障が確立されてないなどが理由のようである）

ところで文部省や中体連が唱えるところの「学校教育活動としてのスポーツ」とは何であろうか。

そもそも「学校体育」は、児童・生徒全員を対象基盤とした教材であって、スポーツの特性を生かしながら教育の手段とするものであり、子供達の興味の助長や体力を高めさせて好ましい社会的態度育成を目指すもので、スポーツ技術の向上だけが目標ではない。（できないし自ら限界がある）

世界スポーツ界水準が飛躍的上昇をし、日本スポーツ界の不振、若年化の世界的傾向が目立つおり、学校の教育計画に基づいて行なう課外指導として位置づけた学校部活動の選手で競技させるだけでは選手は育つものでもない。

また全国大会は、子供達が自己の能力を最高に発揮できる数少ない機会を提供するものであり、その教育的意義は大きいので「学校基盤」にこだわることなく、全中学生のために適正なる実施が期待されるところである。

対外競技基準拡大に伴ない、中体連と競技団体の対立が目立つこの頃であるが、これは大会運営方法などにおいて中体連が競技団体の意見を反映させずに一方的に事を進めるために生じていることで、結局はこれが文部省・中体連の言うところの「教育」なのかという基本的なことが問われるようにさえなっている。

学校教育活動でないと引率教師が不利になるという面が強調されるようになって、そこで文部省は全国大会を公認（7種目）し、国庫補助金一千万円を予算化したため中体連の立場がにわかに強まりいろいろ問題が生じているわけであるが、何も対外競技拡大の意義は中体連の位置の上昇でもあるまいし、我々が今まで長い時間をかけてこの大会を育ててきたのは果たして何のためであろうか。

改正された中学生対外運動競技基準に合うは、全国大会16競技中軟式野球のみという現状を考えるとき、学校教育活動という「錦の御旗」を掲げ型にはめようとする文部省や中体連のあり方に一番問題がありはしないだろうか。

本来、我々（競技団体）と文部省・中体連は協力すべきであるので、あえて事を構えようとは思わないが、バドミントン発展の方策と努力を無視した「降りかかる火の粉」は払わねばならない。

よって、自分たちの手で創り上げるスポーツとしての社会体育を否定する中体連とは、明確に区分された学校教育活動外の大会を主張する次第である。

新入部員必読の書!!

小島一平著

ガッツ!!バドミントン

——限りなき挑戦

第11回トマス・カップ・インターゾーンが行なわれたジャカルタでのこと。現地のファンは口々に「イッペイ・コジマはどうして来ないのか」「彼は元気か」「イッペイ・コジマのプレーは今でもよく覚えているよ」等々、われわれに質問を浴びせてきた。

それほど小島一平の名前は世界的に知られている。

本書は、その小島一平のすべてをさらけ出したものである。体当たり半生記、実戦アドバイス、わがライバルたち、の三部から構成され、巻末には主要大会記録・ルールも収録されている。

ご希望の方は、本誌巻末とじ込みの振替用紙の「その他」の欄に「ガッツ・バドミントン」と明記のうえ、定価2000円と送料240円を添えて、お近くの郵便局からお申し込みください。　バドミントン界編集部



◆日本図書館協会選定図書

TOKYO LETTER

by Miwako Wakazono & Carolyn Matsuura

Some time ago, a goodwill tournament was organized to promote friendship between the high school students of Korea and Japan, and the 12th Goodwill tournament was held this year. Each country takes turns hosting the tournament and this year it was the Japanese players' turn to go to Korea.

The players representing Japan were chosen from among those who made the best showing in the Inter-High School Tournament held from August 1-6 this year. The men chosen were Y. Baba, T. Onoguchi, M. Oshima, and Y. Takahashi, all members of the team from Imaichi High School who won their first championship at this tournament. Also chosen were K. Gondo, the singles champion (he has won the singles and doubles championship for 2 consecutive years), and his partner, E. Murakami, with whom he won the doubles championship.

For the women, S. Kitada, H. Ueda, M. Tomita, and J. Harada, members of the championship team from Shijyonawate Gakuen High School, were selected. With their victory this year Shijyonawate Gakuen High School has established an incredible record by winning the championship for 5 consecutive years. Moreover, S. Kitada, the holder of the triple crown (team, singles, and doubles championship) for 2 consecutive years, is such a superb player that she is said to be the kind of great talent who appears only once every ten years.

Then to complete the team, from Kyushu, the part of Japan nearest to Korea, went K. Takamine and K. Jinnai.

The 12th Japan-Koren High School Badminton Goodwill Exchange Tournament was held in grand style at the YMCA gymnasium in a special municipality of Seoul.

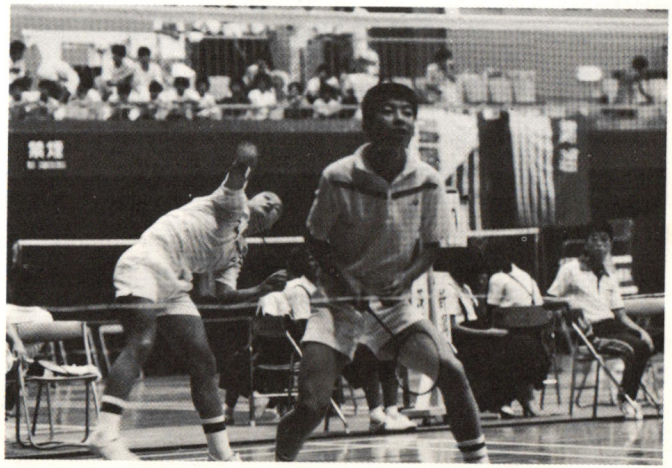
Recently Korea seems to be putting a lot of strength in grooming junior high school students to become future players so the development of these young players will be something to watch.

Because badminton is an easily accessible sport even to the masses, its popularity has grown and spread considerably. In spite of the fact that the participants of this tournament were all high school students, many spectators crouded the tournament site every day.

For the past 4 or 5 years Japan has been absolutely no match for Korea. Last year the tournament ended in a crushing defeat for both the men and the women, with a record of 2 games, 2 losses.

The men managed this year to end up with a 1 win 1 loss record.

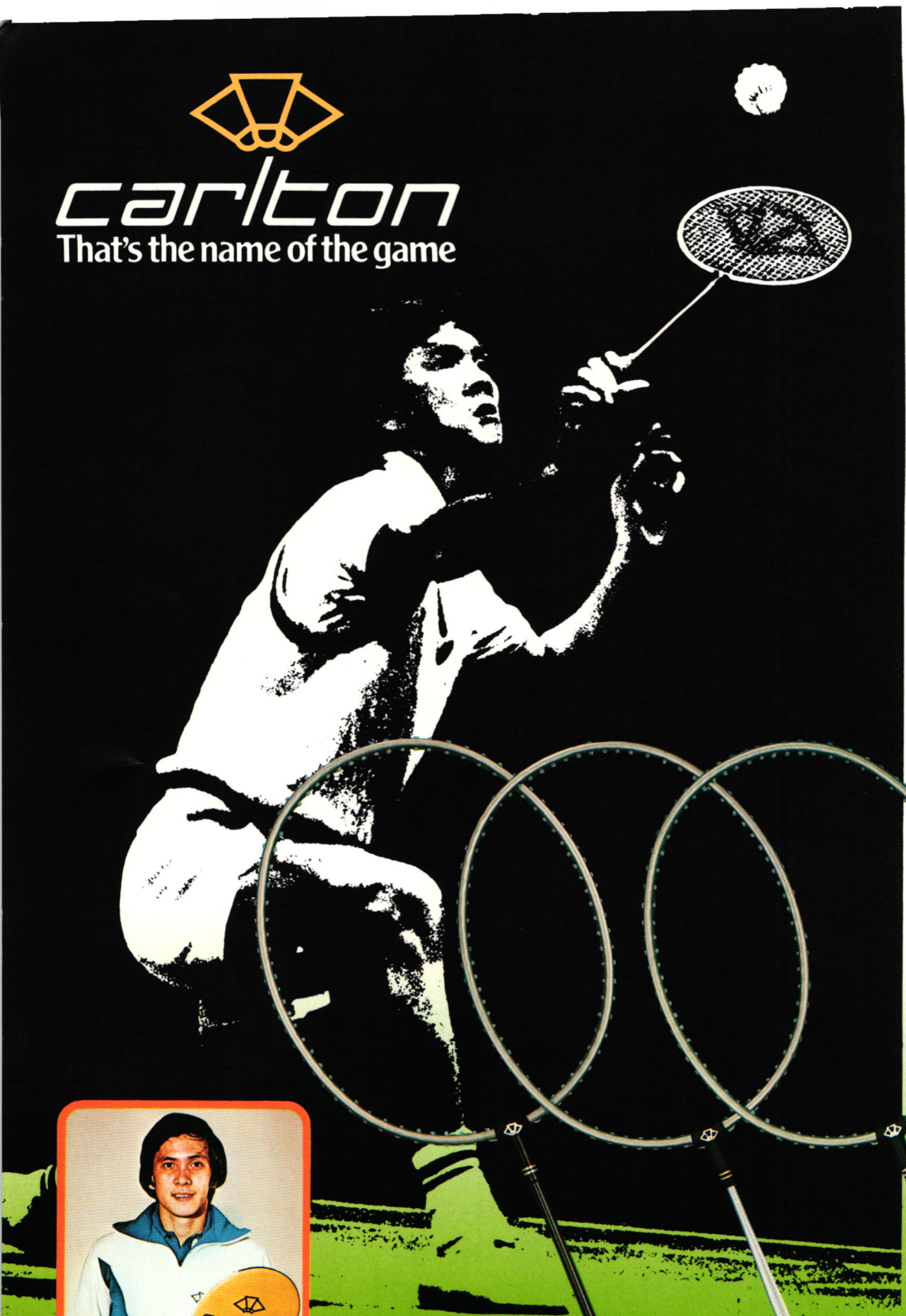
Nevertheless, we still have many things to learn from Korea. Because of this as well as the fact that Korea and Japan are neighboring countries, we hope there will be more opportunities for exchange from now on.



carlton
That's the name of the game

世界無敵のパートナー！

リム・スィー・キングとカールトン。



Liem Swie King（インドネシア）
男子シングル世界ランキング1位
'78全英選手権男子シングル優勝
'78アジア大会男子シングル優勝
'79ワールドカップ男子シングル優勝

carlton
3.7 S
¥9,500
（ヘッドカバー付）

carlton
3.7 X
¥8,500
（ヘッドカバー付）

carlton
3.7
¥8,000
（ヘッドカバー付）

なんと100g以下という、記録破りの超軽量ラケットです。フレームは特殊アルミ合金、シャフトはフルカーボン。軽さが世界記録なら、そのパワーの凄さもいわば世界記録。まさにヨネックスならではのもの。いま世界は、このヒーローに沸いている。

FULL CARBON SHAFT RACKET

B-8500 カーボネックス・エイト フルカーボンシャフト

Carbonex8

色……イエロー・オレンジ・グリーン

重量表示……U(100g～95g)・2-U(95g～90g)

YONEX®

